

国立国語研究所学術情報リポジトリ

The Educational Film Series for the Japanese Language : Basic Level : Teacher's Manual Unit 5

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003127

16mmフィルム／ビデオテープ

日本語教育映画 基礎編
教師用マニュアル

ユニット **5** (第21巻～第25巻)

国立国語研究所

前 書 き

この「日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル」は、「日本語教育映画基礎編」を効果的に利用するための教授者用手引書として作成しました。

「日本語教育映画基礎編」は、日本語を母語としない学習者が日本語を学ぶための初級用映像教材で、1巻5分から8分の作品30巻で構成されています。各巻、独立した学習内容と主題を持っているので、日本語の授業で教科書と併用する副教材として個別的に利用することもできますが、また基礎的日本語能力を実践的に身につけるための教材として、系列的に順次利用することも可能です。

このマニュアルは、映画各巻の学習内容と主題について簡潔に解説し、ユニット（映画5巻分）単位でまとめました。日本語教育映画を効果的に利用するための一助になれば幸いです。

昭和59年11月

国立国語研究所長

野元 菊雄

日本語教育映画 基礎編 学習項目表

	題名及び副題	主要学習項目	その他の学習項目
1	これは かえるです —「こそあど」+「～は～です」—	1. 「こそあど」の用法 2. ～は～です	1. ～をください
2	さいふは どこにありますか —「こそあど」+「～がある」—	1. 「こそあど」の復習 2. ～があります 3. 「は」と「が」の違いの導入	1. ～は？ 2. ～です 3. います
3	やすすくないです、たかいです —形容詞—	1. 形容詞の意味・用法	1. よ、ね 2. 青い色の
4	きりんは どこにいますか —「いる」「ある」—	1. います、あります 2. だれか/だれも、何か/何も	1. 慣用表現 よろしくお願ひします etc.
5	なにを しましたか —動詞—	1. 基本的な動詞の意味・用法 2. ～ます/ました 3. 対象語(目的語)、時、場所の言い方	1. ～時、～時間
6	しずかな こうえんで —形容動詞—	1. 形容動詞の意味・用法	1. 慣用表現 もっといかがですか etc. 2. ね
7	さあ、かぞえましょう —助数詞—	1. 助数詞	
8	どちらが すきですか —比較・程度の表現—	1. 比較・程度の表現 2. ～は～がじょうず/へたです ～は～がすき/きらいです 3. ～は～ができます 4. ～は～が～	1. ～は～がほしい/～たい (cf 18) 2. どちら/どれ/どんな/どの 3. こちら/こっち
9	かまくらを あるきます —移動の表現—	1. 移動に関わる動詞 2. ～ませんか } (cf 13) ～ましょう }	
10	もみじが とても きれいでした —です、でした、でしょう—	1. ～です/でした/でしょう 2. ～だ/だった(待遇表現) 3. ～に行く/来る (cf 14)	1. ～のです(cf 12) 2. ごろ、ぐらい 3. ～月、～日、期間 4. 時の表現
11	きょうは あめが ふっています —して、している、していた—	1. 「～て」形の導入 2. ～ている、～ていた	1. 数・量の言い方 5分、三人etc. 2. 二人称の○○さん 3. ～とも、～でも 4. 前後関係 まず、それからetc.
12	そうじは してありますか —してある、しておく、 してしまう—	1. ～である 2. ～ておく (cf 21) 3. ～てしまう	1. ～のです 2. 会話の始動・展開・終結の語 3. あいさつなどの慣用表現 いってらっしゃい etc.
13	おみまいに いきませんか —依頼・勧誘の表現—	1. ～をください ～て ～てください ～てくださいませんか ～ませんか } (cf 9) ～ましょう } ～ないでください	1. ～てもいい 2. ～てはいけない 3. ～なくてはいけない ～なければいけない 4. ～てみる (cf 17) 5. 「て」の用法 6. ～なんです 7. 数・量の言い方 8. 発話の起こし(文の接続)
14	なみのおとが きこえてきます —「いく」「くる」—	1. 行く/来る 2. ～ていく/くる	1. 動詞による連体修飾
15	うつくしいさらに になりました —「なる」「する」—	1. 「なる」「する」の意味・用法	

	題名及び副題	主要学習項目	その他の学習項目
16	みずうみのえを かいたことが ありますか —経験・予定の表現—	1. することがある 2. したことがある 3. することにする 4. することになる	1. ～たり、～たりする
17	あのいわまで およげますか —可能の表現—	1. 可能動詞 することができ 2. 可能動詞＋ようになる	1. ～やすい/にくい/すぎる 2. ～といい 3. ～ながら 4. ～てみる (cf 13)
18	よみせを みに いきたいです —意志・希望の表現—	1. するつもりだ ～(よ)うと思っている 2. ～たい/たがる ほしい/ほしが 3. する/している/したところだ 4. したばかりだ	1. 材料「で」(～できている)
19	てんきが いいから さんぽをしましょう —原因・理由の表現—	1. ～から、～ましょう/～ませ か/～てください 2. ～ので、～ 3. ～て、～(理由) 4. ～らしい ～ようだ	1. 名詞句の「の」 2. 存在・非存在の「ある」「ない」 時間がある etc. 3. ～てから～ 4. ずいぶん、せっかく、 すっかり etc.
20	さくらが きれいだそうです —伝聞・様態の表現—	1. ～そうだ (伝聞) 2. ～そうだ (様態) 3. ～ようだ (推定) ～らしい (推定)	1. かしら 2. たしかに、どうやら、 とにかく etc.
21	おけいこを みに いっても いいですか —許可・禁止の表現—	1. ～てもいい/ かまわない 2. ～なくてもいい 3. ～てはいけない 4. ～なければいけ ない/ならない 5. ～なくてはいけない 6. ～したほうがいい 7. ～するようにしてください	1. ～する前に、～してから 2. ～ておく (cf 12)
22	あそこに のばれば うみがみえます —条件の表現1—	1. ～と、～ 2. ～ば、～ 3. ～たら、～ 4. ～なら、～	
23	いえが たくさんあるのに ともしずかです —条件の表現2—	1. ～ても、～ 2. ～のに、～ 3. ～けれども、～ 4. ～にもかかわらず、～	1. ～まま
24	おかねを とられました —受身の表現1—	1. 受身の表現(他動詞を中心に)	1. ～と、～した 2. ～(よ)うとする
25	あめに ふられて こまりました —受身の表現2—	1. 受身の表現(自動詞を中心に)	1. ～し、～し、～ 2. ～たびに
26	このきっぷを あげます —やり・もらいの表現1—	1. やる/もらう/くれる	慣用的表現
27	にもつを もって もらいました —やり・もらいの表現2—	1. ～てやる/もらう/くれる	慣用的表現
28	てつだいを させました —使役の表現—	1. 使役の表現 (～てもらう) 2. 使役受身の表現	慣用的表現
29	よく いらっしゃいました —待遇表現1—	1. 敬語	慣用的表現
30	せんせいを おたずねします —待遇表現2—	1. 敬語	慣用的表現

目次

日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル

ユニット5

前書き	1
学習項目	2
この本の構成と使い方	5
第21巻 おけいこをみにいってもいいですか — 許可・禁止の表現 —	
目的・構成	7
学習項目	8
許可・許容の表現 禁止の表現 必要・義務・当然の表現	
「～する前に」「～してから」 女性の言葉づかい	
使用にあたって	13
シナリオに沿って	16
第22巻 あそこにのぼればうみがみえます — 条件の表現 1 —	
目的・構成	27
学習項目	28
「～と～」「～ば～」「～たら～」「～なら～」	
使用にあたって	32
シナリオに沿って	33
第23巻 いえがたくさんあるのにとてもしずかです — 条件の表現 2 —	
目的・構成	45
学習項目	46
「～ても～」「～のに～」「～けれど～」「～にもかかわらず～」	
「～まま」	
使用にあたって	49
シナリオに沿って	50
第24巻 おかねをとられました — 受身の表現 1 —	
目的・構成	61
学習項目	62
受身の表現 受身の構文 「～と、～した」「～(よ)うとする」	
使用にあたって	66
シナリオに沿って	67
第25巻 あめにふられてこまりました — 受身の表現 2 —	
目的・構成	71
学習項目	72
迷惑の受身 その他の受身 「～し～し」「～たびに」	
シナリオに沿って	74
映画およびこの本の作成関係者	83

この本の構成と使い方

映像教材には、中心学習項目のほかに、さまざまな内容がふくまれています。授業に使用するにあたっては、制作者が意図してとり入れた要素もまたそうでない要素も、できる限り細かい検討を行ってから利用計画を立てるのが望ましいことです。事前に知っておくべき内容を教授者が確認し、自分のものにするために、このマニュアルでは、どのような種類の情報が教材のどの部分に出現するか、そしてその情報をどう理解し指導に役立てたらよいか、ということを中心に編集してあります。

以下、このマニュアルの構成を追って、編集方針と使い方を述べていきます。

目的・構成——映画の全体像、内容の把握

各巻の最初のページに、その巻の主要学習項目、ストーリーの流れ、学習項目の出現のようすを表にして示しました。各巻のこのページだけに目を通していくことによって、映画全体の内容把握、また授業計画の作成の参考になります。なお、表の「カウント」と記した空欄は、テープカウンターの数値を書き入れるためのものです。

学習項目——文法・文型の整理

この映画は、各巻ごとに表現文型を中心にまとめてあります。主要学習項目で、その巻で取り上げた文法・文型の基本的な意味・用法を、日本語教育の観点から解説しました。その巻を授業で扱うにあたって、文法知識の再確認のために利用できます。

シナリオに沿って——「語彙」「文法」など項目別に配列

ページの上部にシナリオを提示して、その内容に関する情報や解説を同じページ内に示しました。なるべく他の分冊や他のページを参照することなくそのページだけで必要な情報が得られるように配慮しました。そのため、同じような解説が重複して現れることをあえて許容しています。

全体を「語彙・表現」「文法」「留意点」「生活・文化」の四つの項目にわけてその順に配列し、個々の事項をさがし出しやすくしました。また、ひとつの項目、たとえば「文法」だけをページを追って通読することにより、短時間でその項目についての全体像をつかむということもできます。

以下、四つの項目について述べます。

■語彙・表現

教授者として知っておくべき語句の意味用法と、学習者に与える説明というふたつの観点から、語彙を取り上げました。おもにシナリオに現れた用例について簡

単な語釈を与え、また類似語・関連語のあいだでの意味・用法の異同についても扱っています。対語は「↔」を、その他の関連語は「→」を付して示しました。さらに、映像には出現するが、せりふには現れない語を「映像⇒」という印をつけてまとめました。慣用表現などについても取り上げました。

■文法

せりふとして出現したそれぞれの文は、場面や文脈など多くの要素との関連で形式や意味内容が成り立っています。ここでは「学習項目」で述べた文法知識を前提とし、シナリオの文脈を参照しながら、主要学習項目やその他の文法的な事項がどう運用されているか、解説してあります。

■留意点

「文と文、発話と発話のつながり」といった、談話レベルでシナリオをとらえ、その規則や注意すべき点を解説しました。また日本的なコミュニケーションのしかたに関する注意など、文法だけに着目しては見すごしがちなものも取り上げ、さらに談話関係に限らず授業にあたって注意しておいたほうがよいことがあれば言及しました。

■生活・文化

日本文化や日本事情に関する知識は、日本で生活したり日本人と接するとき役に立つものと考えられます。また、練習の題材として、あるいは学習動機を高めるための素材として教室内で取り上げる必要もあります。ここでは生活・文化についてなるべく具体的に説明を加えました。

使用にあたって

以上のほか、巻によってはこの欄を設け、「効果的な使い方」、「練習帳について」の各内容を取り上げています。このうち「練習帳について」は、このマニュアルとは別に刊行している「日本語教育映画 基礎編 練習帳」を授業や自習で使うにあたっての注意点と使い方を述べたものです。また、「トピック」という標題で、おもに生活・文化情報などについて補足説明をした巻もあります。海外の教室などで、特に日本事情の具体的データが不足するようなときに利用できると思います。

———— 注 意 ————

このマニュアルは、映画にふくまれる各種情報についての客観資料を提供することを主目的としています。このマニュアルが指導上の教案に代わるものではありませんので、解説した内容のすべてを直接学習者に与えようをすると不適当な場合が生じます。個々の指導目標や学習段階に即して重要度を吟味したうえで、利用できる情報を取り上げるようにしてください。

第 21 卷

おけいこを みに

いっても いいですか

— 許可・禁止の表現 —

目的・構成

1 目的

この映画は、許可・禁止の言い方の基本的な表現を提示し、その意味と用法の理解をはかることを目的としている。また関連表現として、必要・義務の表現も取り上げる。なお、基礎編全巻を通して、この巻以降友人同士のくだけた会話体が入り入れられ、「です・ます」体との差が紹介される。

2 構成

おもな舞台は明治神宮内苑。主人公は若い女性の春子、夏子、秋子の三人。友人同士が日本庭園を散歩しながら、春子と秋子がそれぞれの稽古風景を回想するという構成である。

	文	場 面	内 容	学 習 項 目	カウ ント
I	1	① 神宮内苑(1)	茶室に入れるかどうか、女性同士の会話と監視員への問い。	「～でもいい」	
		⑬ 茶室の前			
		⑭ 神宮内苑(2)			
2	⑰ 芝生・池	芝生に入った男性、池に石を投げる子供に対する監視員の注意。	「～ようにしてください」 「～てはいけません」		
	⑲ 神宮内苑(3)	花菖蒲をめ、生け花の稽古へと話題が移る。	(女性同士の会話)		
⑳ 菖蒲田にて					
II	⑳ 回想 (1)	生け花教室	春子が男性教師から、お花の生け方の指導を受けている。	「～ようにしてください」 「～でもいい/～てはいけない」	
III	④⑨ 神宮内苑(4)	菖蒲田の道	お花の稽古に対する感想から茶道の稽古に話題転換。	「～しなくては」	
IV	⑤③ 回想 (2)	茶室	秋子がお茶の点前をし、先生が道具の扱いなどを注意する。	「だめ/けっこう」 「～なければ/～なくては」	
V	1	⑥④ 神宮内苑(5)	お茶の稽古に対する感想。稽古見学の許可を求める夏子。	「～でもいい」	
		⑦⑦ 東屋の前			
2	⑦① 神宮内苑(6)	出口へ	稽古の時間が迫ったことに気づき、散歩を終える。	「～なければならぬ」	

学習項目

1 主要学習項目

① 許可・許容の表現

この映画に現れる許可・許容表現の部分を以下に書き抜いてみる。

- 場面 I ②⑥ 「入ってもいい」
II ③④ 「力を入れなくてもいい」
③⑧ 「切ってもかまいませんか」
V ⑥⑧ 「見に行ってもいい」

いずれも、動詞「～て」形が「ても／でも」の形をとる例であるが、動詞のほかに形容詞・形容動詞・助動詞にも「ても／でも」は接続する。また、「入っている」のような形になることもある。「いい」の部分は、「かまわない」のほか、「さしつかえない」「大丈夫」「けっこう」「よろしい／よろしゅうございます」などと置きかえられる。表現意図により微妙な違いが現れる。

(a)主語が話し手自身の文では、相手の誘いに応ずる意図となる。ただし、ときとして、あまり気が進まないが、それでも構わないという譲歩に近い対応も含まれる。

- 例：A 「おさしみを食べてみませんか。」
B 「食べてもいいです。」

「おさしみ(を食べるの)もいいですね。」といえ、心からの同意を示す。

(b)形容詞の「～て(も)」形、および形容動詞(語幹)や名詞に「で(も)」が加わったものに「いい」「かまわない」などがついた場合も、譲歩の意図を含んだ許容を表す例が多い。「寒くてもいい(暖かい方がいいが)」、「不便でもいい(便利な方がいいが)」、「紅茶でもかまわない(コーヒーの方がいいが)」など。

(c)動詞の否定形に「て(も)いい」が加わると不必要の表現になる。婉曲な禁止の意味あいを含む場合があり得る。例：「それはやらなくてもいい」「つまらないことは言わなくてもいい」。

許可を求める文には、ほかの表現を使った形もある。

- (依頼) ここを通してくださいませんか。≡ここを通ってもいいですか。
(希望) 使わせていただきたいんですが。≡使ってもいいですか。
(可能) これを $\left\{ \begin{array}{l} \text{借りられますか。} \\ \text{お借りできますか。} \end{array} \right.$ ≡これを $\left\{ \begin{array}{l} \text{借りてもいいですか。} \\ \text{お借りしてもいいですか。} \end{array} \right.$
(使役) 休ませてください。≡休んでもいいですか。
わたしにやらせて。≡わたしがやってもいい？

② 禁止の表現

禁止表現は、否定的行為を要求する命令の一種である。基本的には二つの文型

が考えられる。

(a)動詞(基本形)に終助詞「な」をつけた形:「するな」。強い禁止命令表現であり、女性は口にしないのがふつう。

(b)動詞、形容詞、形容動詞(語幹)、名詞+「ては/では」に「いけない/ならない/だめ/いや/困る」などをつける文:

場面Ⅰ ⑩「石を投げてはいけません」

Ⅱ ⑳「切ってはいけません」

この映画には(a)の表現形式はない。また、許可の表現「～でもいい」に対する不許可「～てはいけない」として取り上げているのは、場面Ⅱの⑳㉑の会話である。また、「～てはいけません」のほか、「～てはなりません/だめです/困ります」などの形も同じ意図である。縮約形は、「～しちゃいけない/ならない」である。

禁止の表現は、がいして相手に強く響きがちである。そこでこれにかわるより婉曲な言いまわしが多様にみられる。たとえば、監視員の対応に添ってみると、場面Ⅰの⑥「中に入ってもいいですか」という許可を求める秋子の問いに対しては、⑦「まだ入れません」と不可能の表現形式で応答している。さらに芝生の中に入って写真を撮ろうとしている成人男性に対して⑭「入らないようにしてください」とやわらかな要求表現を用いて勧告している。ところが、まだ小さい男の子に対しては、⑩「石を投げてはいけません」と強い不許可・禁止表現を用いている。場面Ⅱの⑳の応答もこのような観点から捉えてみると、種々言いかえることができそうである。通常、「～でもいいですか」の問いに対する否定の応答は、「いいえ、～てはいけません」に類する表現を思い浮かべるが、実際の発話では、あまり強い不許可の表現は場面や人間関係を考慮して避け、言いまわしを調節しながら反応するケースが見られる。そこで㉑「切ってもかまいませんか」に対する否定の答え方として考えられる例を表現の穏やかな順に並べてみたい。対する否定の答え方として考えられる例を表現の穏やかな順に並べてみたい。

「切ってもかまいませんか。」

→いいえ、 a 「切らない方がいいでしょう」

b 「切らないようにしてください」

c 「切らないでください」

d 「切ってはいけません」

(いや)、 e 「切るべきではない」(文語では「切るべからず。）」

f 「切っちゃだめだ」

g 「切るな」

aの例は勧告・助言、bは婉曲な指示・依頼、cは命令依頼である。注意したいのは、aの文で「切る」という肯定の行為の勧告の場合には、「切った方がいい」と過去形が使われる点である。特に初級教材では一貫して、「～した方が」の文型

で導入されているものが多いようである。

場面Ⅱ ④ 「この葉を残しておいた方がいいでしょう」

④ 「(前略)、ここにこの花を生けた方がいいですね」

これらは文型の上からみれば、「(～より)～の方が」という二つの事物の比較の形式といえるが、その意図は相手に選択の余地を残した控えめな消極的勧告である。④でいえば、「残さないよりも」という対立概念が言外に含まれた上で「残しておいた方が」という話し手の結論が中心に据えられているのである。この場合、「残しておく方がいい」という形も成立しうる。「残しておく方が」といえば、単に一般的に述べているにすぎないが、「残しておいた方が」というと話者が確信をもって個別的に助言する意図が出る。ここで、実際のときを示す場合は、「～する／した方がよかった」と文末の言い方にゆだねられる。なお、否定の勧告の場合は、「～しない方がいい」という形をとる。また、話し手自身が自分の行為に対して「～した方がよかった／しない方がよかった」と言う場合は、後悔の念が込められている。

bの「～ようにしてください」も、相手の意志を尊重している点でaと並んで穏やかな表現といえるが、「～てください」と命令依頼の言い方を用いている点、相手にそうすることの決定を迫っており、aに比べて要求の程度が強まる。ただし、直接依頼の形をとるcよりはやわらかい要求となっている。

場面Ⅰ ①④ もしもし、芝生には入らないようにしてください。

② はさみは、しっかりと持つようにしてください。

④ それは、もう少し下に向けるようにしてください。

この言い方は、肯定でも否定でも基本形に接続するので、aのような用法の複雑さはない。ただし、「きのう言ったようにしてください。」のような言い方もある。

③ 必要・義務・当然の表現

「～なければ／なくては」+「いけない／ならない」で、義務の表現となる。動詞や一部の助動詞の「～ない」の形、および形容詞・形容動詞の連用形につく。

場面Ⅲ ④ 「もっとおけいこしなくては……」

Ⅳ ⑤ 「高く上げなければいけません」

⑥ 「置かなくてはいけません」

Ⅴ ⑦ 「お花のおけいこに行かなければならない」

⑧ 「急いで行かなければ」

「～てはいけない／ならない」の部分は禁止の場合と全く同じ形であるが、「～なくては」と否定が含まれることで全く意味が異なる。この表現の意図は、それ以外には許さないという形である行為を強制する命令の一種といえる。話し手が自分自身の行為について言うとき(④⑦⑧)は義務の表現になり、聞き手の行為に対して用いると強制的意図が加わる(⑤⑥)。「～なければならぬ」の方が、「～いけな

い」より、必然性が高く、回避不可能な事柄に用いる。また同時に文章的表现でもあり、法律・規則の条項など遵守事項の例記される場合に多く用いられる。なお、くだけた会話では、「なければ」は「なけりゃーなきゃ」、「なくては」は「なくちゃ」という縮約形に変化しやすい。

2 その他の学習項目

① 「～する前に」「～してから」

動作の順序を示す表現である。

場面Ⅲ ㉑ これを生ける前に、ここを切っておきます。

この場合の動作の順序は、「まずここを切って、次にこれを生ける」という流れになる。すなわち、文の後半の動作が成立したのち、前の動作が位置づけられる。動作の順序を示す類似の表現として次の発話を取り上げてもよい。

場面Ⅳ ㉒ その蓋を先に取っておきます。

動作はひとつしか表れていないが、「まず蓋を取って、次に今やろうとしていること（柄杓を取る）をする」という手順が「先に」という語で示されている。言いかえれば、「それをする（柄杓を取る）前に、蓋を取っておきます。」となる。

「～してから」は、最初の動作ののち、後の動作が起こる場合である。

場面Ⅱ ㉓ それを生けてから、ここにこの花を生けた方がいいですね。

似たような表現に、「～したあとで」および「～て」形を用いた文があるが、それぞれ微妙に異なる。

② 女性の言葉づかい

女性特有の言葉にみられる特徴を以下に並べ、特に終助詞に焦点をあててみる。

(1) 女性特有の終助詞

「わ」：断定的表現をやわらげる (㉔㉕㉖㉗㉘㉙)。動詞・形容詞の基本形、過去形、丁寧体、普通体に接続。推量形や疑問文にはつかない。イントネーションは上がる調子で軽く発音。

「よ」：主体の意志や判断を相手にも強いることとなるため、不用意に使うと押し

男 / 女	男	女
違いますよ ^㉔ いけませんよ ^㉕	違うよ いけないよ	違うわよ / のよ いけないわよ / のよ
行きましょう } よ 習いましょう } よ	行こう } よ 習おう } よ	行きましょうよ ^㉖ 習いましょうよ ^㉗
いいですよ ^㉘	いいよ	いいわよ / のよ
へたですよ 大丈夫ですよ	へただよ 大丈夫だよ	へたなのよ ^㉙ 大丈夫よ ^㉚
先生ですよ	先生だよ	先生よ ^㉛

つけがましきが残る。男性も使うが接続の形が異なる。女性の場合、動詞・形容詞の基本形+「わ/の」+「よ」と続く。名詞や形容動詞(語幹)、また「～て」形には直接つく。例：「行って

よ」(依頼)。

「ね」：相手に訴えかける機能があり、男女ともよく用いる。接続の形は「よ」と同じ。右表参照。

以上の三つの終助詞が続けて用いられると、「～わよね」の順で接続する。この「かしら」：女性特有の終助詞で、不審、疑問を表す。接続は動詞・形容詞の基本形、形容動詞(語幹)と名詞

男 / 女	男	女
ありますね 開きませんね	あるね 開かないね	あるわね/あるのね⑳ 開かないわね/のね㉑
いいですね⑳㉒	いいね	いいわね/のね とっておきたいわね㉓
きれい } ですね すてき }	きれい } だね すてき }	きれいね㉔ すてきね㉕
そうですね	そうだね	そうね㉖
そうですね	そうだろうね	そうですね㉗㉘

に直接つく(㉑㉒㉓)。動詞の否定形につくと願望を示し(「来ないかしら」)、否定の事柄への疑問は「の」+「かしら」(「来ないのかしら」)。

(2)敬語的表現

丁寧さ・尊敬の意を表す接頭辞「お/ご」の使用が男性に比べて頻繁。

例：「おけいこ」「お花」「お茶」(㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟)

(3)女性特有の語彙

感動詞「あら」(㊱㊲㊳)、"まあ"のほか、人称代名詞の「あたし」など。

(4)未完結実現

中止形、体言止めを用い、言い切らない文末表現によって余韻を残す。

例：㊴、㊵「ほんと。」

㊶「どんな先生？」 ㊷「もうこんな時間。」

㊸「もっとおけいこしなくては……。」

㊹「急いで行かなければ。」

} 体言止め

} 中止形

主要学習項目の一覧

品詞	表現	基本形	許可/禁止	義務/不必要	～ようにして	～方がいい
動詞		買う 見る 来る する	買って/ては 見ても/ては 来ても/ては しても/ては	買わなくては/ても 見なくては/ても 来なくては/ても しなくては/ても	買う 見る 来る する	買った(買う) 見た(見る) 来た(来る) した(する)
形容詞		小さい	小さくても/ては	小さくなくては/ても	小さく { なる する }	小さい
形容動詞		静か	静かでも/では	静かでなくては/ても	静かに { なる する }	静かな
名詞		子供	子供でも/では	子供でなくては/ても	——	子供の

使用にあたって

1 効果的な使い方

女性が中心となって場面が展開していく映画であり、話題の上からも言葉づかいの面からも女性らしさがにじみ出ている。主要学習項目は、細かい表現も含めるとかなりのボリュームとなるが、表現の意図をきっちりつかんだ上でまとまった形で導入していけるように留意したい。特に文末が似たような形をとりながら、前に否定がつくだけで表現の内容そのものが変わってしまうもの、たとえば、「～してもいい」(許可)と「～しなくてもいい」(不必要・不許可)、「～してはいけない」(禁止)と「～しなくてははいけない(義務)」は、混乱なくしっかり定着させるよう心がけたい。

基本となる学習項目の表現をドリルによって定着させたら、女性特有のせりふになっている部分を男性からどうか言いかえてみる練習をするのも、学習者を楽しませるであろう。いきなり男性の言葉づかいにかえるのが無理なら、まず一般的な表現にかえて段階的に進めることである。女性の表現はほぼ全体的に散らばっているので、場面ごとの導入の際、最少限必要に応じた説明を加えつつ進めてゆき、さらに時間をさくことができれば、全体を通して女性の言葉づかいの特徴を探らせるという作業をしてみるとよい。教授者が一方的に説明を加えるだけで終わってしまうよりも、実質的に身につく発見となるであろう。

2 練習帳について

男女のことばづかいについては、特にまとまった練習としては取り扱わなかった。シナリオを利用したり、会話の練習(7ページ)を応用して、文末の表現を主として変えさせてみるとよい。また、自由会話のなかでも、あらたまった話し方ばかりでなく、くだけた形で会話する機会を与えたい。

第12巻の既習項目であるが、定着の確認を兼ねて、「～てありますか」→「～ておきました」といった形の練習もよい。具体的には、

A: 門はあけてありますか。

B: はい、もうあけておきました。

などのような例をつくり、置きかえたり、言いかえたりさせる。また、「まだ」「もう」の対応を取り上げてみるのも復習となる。

なお、8ページは、ドリルをすませたのちに全体を通してみせてから質問する方法もあるが、場面ごとに区切った練習のつど、その部分に応じた問いを取り出して理解度をはかるために用いてもよい。

3 トピック

ここでは、映画で取り上げられた稽古事の道具類を中心に図示しておく。それぞれの説明は、「シナリオに沿って」の【生活・文化】欄も参考に。

① 華道（場面Ⅱ）

▷水盤すいばん：広口で底が浅く平らな花器。形はさまざまであるが図のような円形や角型が一般的。主として盛花用に使う。



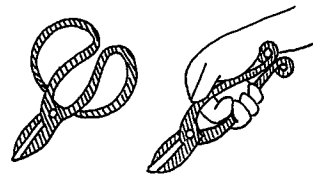
▷剣山けんざん：枝の根本を針状の部分にさし込んで固定する金属製の道具。流派によっては七宝しちほうという針のないものを用いる。



半月型はんげつがたのものは丸型まるがたにはめこんで大きく使ったり、離して置いて変化をつけるのに用いる。

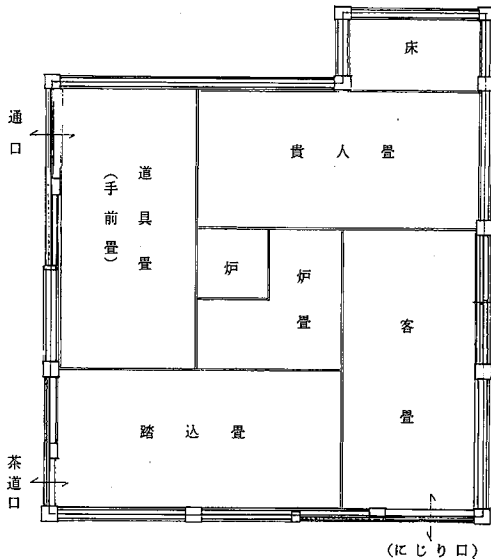


▷花鋏はなばさみ：画面で春子はるこが使っているような形のもののほか、手の平てのひらの中に握りこんで用いる形のものもある。

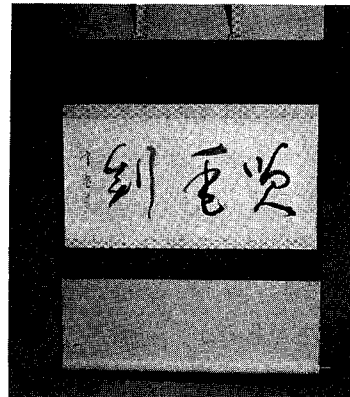


② 茶道（場面Ⅰ-1、Ⅳ）

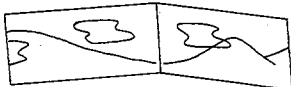
▷茶室の内部——四畳半（基本形式）



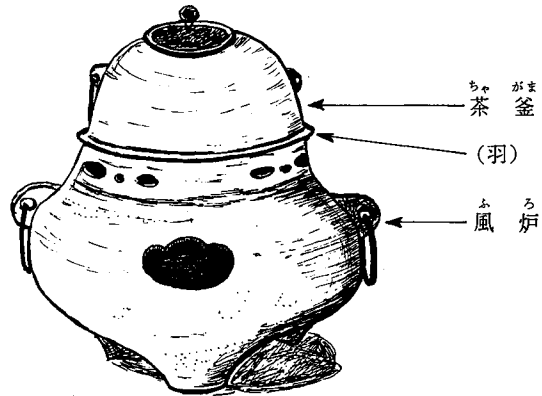
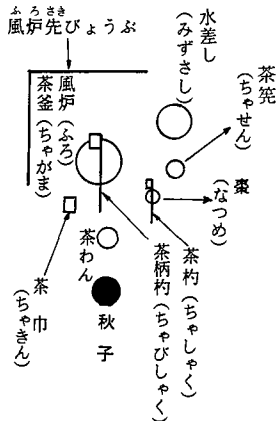
▷掛け軸かかけ：床の間に飾られる軸。茶席には味わい深い言葉の書が多い。画面の文字は右から左へ「吹毛剣すいもうけん」と読める。吹きつける毛をも切るほどによく切れる鋭い剣の意。



▷風炉先屏風ふうろさきびょうぶ：道具畳の隈かまに立て、装飾を兼ねた間仕切りとして使う小さな二枚折りの屏風。



- ▷ **花入**：床の間に置くものと床柱に掛けたり吊ったりする形のものがある。茶花は普通の生け花とは根本的に異なり、素材も野草など地味なものが多い。
- ▷ **点前の道具とその配置**
- ▷ **風炉・釜**：風炉は主として夏秋（5—10月）に用い、11月になると炉を切って点前する。釜の素材は鉄、真鍮など。



- ▷ **茶碗**：茶の湯の道具の中でも特に重要で、一般の湯呑や御飯茶碗よりたっぷりと大きめ（直径15cm位）。盛夏には平たい形、厳冬には筒茶碗を用いて季節感を出すよう使い分けたりすることもある。模様のある面や、景色のよい方を正面として扱い、亭主（茶を点てる人）は必ず客に正面を向けて出す。いただく時は、左手の平の上でまわし、正面を避けてから飲む。



- ▷ **水指**：釜に水を足したり、茶碗などを洗うための水を入れておく器。
- ▷ **茶托**：抹茶を入れておく器。形がナツメの果実に似る。
- ▷ **茶筥**：茶をかきまわし泡だてる道具。竹製。
- ▷ **茶柄杓**：抹茶をすくって茶碗に入れるためのさじ。長さは約15～18cm。季節や行事にちなんだ銘のあるものを用いる事が多い。材料は竹が主で、まれに木、象牙、金属製のものもある。



- ▷ **柄杓**：釜から湯を汲み取ったり水指の水をすくうための竹製の道具。
- ▷ **抹茶**：新芽を粉にした茶。湯をそそいでかきまぜる。薄茶の場合は泡を立てて客に供する。濃茶は半練り状にする。
- ▷ **茶巾**：茶碗をふくための白い麻または木綿の布。きちんとたたんで使う。
- ▷ **袱紗**：映画では秋子に腰につけている赤い布。男性は紫色をよく用いる。茶道具を清めたりする。



シナリオに沿って

I 1	春子	①	あら、茶室かしら。	神宮内苑
	秋子	②	入ってもいいのかしら。	
	夏子	③	そうね。	
	秋子	④	あっ、すみません。	
	監視員	⑤	はい。	
	秋子	⑥	中に入ってもいいですか。	
	監視員	⑦	まだ入れません。	

■ 語彙・表現

あら：思いがけぬ発見をして発せられた。→「おや」（男性）。

かしら：不審、疑問の気持ちを表す。→「かな」（男性）。

あっ：ここでは他人に対する呼びかけ。

すみません：他人に何か聞くための導入の表現。

映像 ⇒ 散歩 丸(円)窓 警備員

■ 文法

②入ってもいいのかしら。 ⑥入ってもいいですか。

「～でもいい」を用い、許可を問う。②では①と同様「かしら」が使われ、他に対する質問というより、話し手自身の疑念。これに対し、⑥では茶室の管理人としての立場にある人物に向けられた問いとなる。

⑦まだ入れません。

「入る」が可能動詞「入れる」になっており、⑥の「入ってもいいですか」の返事となっている。許可に対する否定は、通常「～ではいけない／ならない」（不許可）が対応した形として提示されるが、ここでは門がまだ開かないので入ることができないという反応になっている。

■ 留意点

前半、仲間同士のくだけた会話が交わされているのに対し、後半、第三者の監視員が登場、初対面相手に対しあらたまった言葉づかいとなっている点に注意。

■ 生活・文化

茶室：（丁寧には、「お茶室」）茶会を行うための部屋。独立した建物となっているものも含む。広さは四畳半を基準とし、これより大きいものが広間、小さいものが小間となる。小間は草庵茶室とよばれ、にじり口がついている。客は身分の高低にかかわらず、平等に頭を低くして出入りする。この映画では明治神宮内苑にある隔雲亭の一部が映し出されている。

I 1	監視員	⑧ 10時に門が開きます。
	秋子	⑨ そうですか。
	監視員	⑩ はい。
	秋子	⑪ ありがとう。
	春子	⑫ まだ開かないのね。
	夏子	⑬ ねえ。
I 2	監視員	⑭ もしもし、芝生には入らないようにしてください。
	男	⑮ あっ、すみません。
	監視員	⑯ 坊や、石を投げてはいけませんよ。
	春子・夏子・秋子	⑰ あっ、あら。(笑い声)

■語彙・表現

もしもし：人を呼びとめたりするときの呼びかけ。ここは注意を与える場面なので、語気が強い。電話での用法は第13巻参照。

すみません：注意を受けて自分の非に気づき、あやまっている。④参照。

映像 ⇒ 敬礼 柵 カメラ 写す 注意 あやまる 池 走る ころぶ

■文法

⑭もしもし、芝生には入らないようにしてください。

「～ようにしてください」は一種の要求表現であるが、「～てください」よりやわらかい印象。「～ないように…」といった場合、相手の自発的な行為中止を求める形となる。

⑯坊や、石を投げてはいけませんよ。

池に石を投げこんでいる男の子に対する禁止表現。

■留意点

秋子は監視員に「⑪ありがとう。」と礼を言っている。軽く感謝の意を示す場合には、「どうも」ですませる場合もある。目上の相手に対しては、「ありがとうございます／ました」と最後まで丁寧に言わないと横柄な印象を与えがち。

監視員が園内で注意を与えている。成人男子に対する言い方と男の子に対する言い方とに差がある点に気づかせたい。⑭は大人に対するもので、丁寧に穏かに表現し、⑯では子供のいたずらを中止させるため、丁寧体を使いながらも厳しい禁止表現となっている。

■生活・文化

芝生：神宮内苑の芝生は手入れが行き届き、まわりには柵がめぐらしてある。日本では、一般に、公園など公共の場所にある芝生の中は立ち入りが禁じられていることが多く、「立入禁止」「芝生に入るべからず」などの立札が立っている。

I 3	夏子 ⑬	きれいな。
	秋子 ⑭	この紫の色、すてきな。
	夏子 ⑮	ねえ。
	春子 ⑯	ほんと。
	夏子 ⑰	ほら、こちらの白い花もいいわ。
	春子 ⑱	ずいぶんいろいろな菖蒲 <small>しやうぼ</small> があるのね。
	夏子 ⑲	写真にとっておきたいわね。
	秋子 ⑳	そうね。
		㉑ 春子さん、お花のおけいこを始めたんでしょう。
	春子 ㉒	ええ。
	㉓ でも、まだ下手なのよ。	

■ 語彙・表現

お花：具体的な花そのものではなく、稽古事としての華道（生け花）をさす。

映像 → 水蓮 菖蒲田 東屋(あずまや)

■ 文法

㉔ 写真にとっておきたいわね。

「写真をとる」といえば、花の写真をとるの意。「～ておく」（第12巻参照）は、ある目的のもとに後のことを考慮に入れて事前に行うという意味。ここでは花の美しさをその場限りにするのを惜しみ、将来も鑑賞できるよう写真に収めていつまでも保存したいという意図である。

■ 留意点

女性同士が花菖蒲の美しさをめで合う場面で、話の流れに沿ったあいづちの打ち方や間、終助詞の使い方、やわらかで起伏に富むイントネーションを理解させるのによい。

菖蒲田を散歩しながら、生け花のけいこの話題が出され、春子の回想へと入ってゆく部分である。眼前の花が呼び水となって花のけいこへと話題が転換されている。

■ 生活・文化

菖蒲しやうぼ：内苑しやうよだの菖蒲田は、明治30年ごろより明治天皇が皇后のために水田に花菖蒲を植えさせられたもの。5月末から6月にかけてが花の見ごろ。アヤメ科の多年草で花菖蒲ハナショウブが正式名称。

稽古事けいこ：大半の日本女性は、結婚の適齢期が近づくと、勉強や仕事の合間に何らかの習い事をしに行く。伝統的なものとしては、華道、茶道、その他、琴、和裁、料理といったものがある。現代ではさらに語学や和服の着付けなどもあげられよう。

I 3	春子 ㉔ この間も……。
II	先生 ㉕ 春子さん、ちょっと。 ㉖ これを生ける前に、ここを切っておきます。
	先生 ㉗ はさみは、しっかりと持つようにしてください。
	春子 ㉘ はい。

■語彙・表現

この間：「この」の指示性は消え、全体で最近、先日の意。

ちょっと：相手の注意を喚起するための呼びかけ。

生ける：草木の花や枝を花器にさす。→生きる

しっかりと(と)：ぐらついたり、すべったりしないよう確実に。

映像 ⇒ 思い出す 生け花教室 枝 見せる

■文法

㉔この間も……。

「も」は既知、既出のものと類似の事物を提示する働き。この場合は、生け花が下手という実例が今までにいくつかあったが、「つい最近もまた……(こんなことがあったのよ)」といった意図になっている。すべてを言い切らない文型で、余韻をもたせて次の回想場面を導いている。

㉖これを生ける前に、ここを切っておきます。

言いかえれば、「ここを切って(おいて)から、これを生けます。」枝がきちんと立つように太い枝は根元を剣山の針にさしやすくなるように切る。「～ておく」は事前の準備。

㉗はさみは、しっかりと持つようにして下さい。

「～ようにしてください」は穏やかな注意・要求。否定の形は㉘参照。

■留意点

ここから回想場面が始まる。師弟間では、通常、姓を呼び合うことが多い。特に異性の師弟間で first name を呼ぶのは小学校時代までか、長く親しい付き合いがある場合。この映画では、名前に起因する混乱を避けるため、一貫して春子、夏子、秋子が使われている。㉕で男性教師が「春子さん」と呼んでいるのは以上の配慮からのこと。

■生活・文化

生け花教室：生け花の稽古場にはいくつか異なる方式がみられる。教師が自宅で開く個人教授的なもの、生け花学校や各種成人学校のようにグループ形式の生け花クラス、花店や女子社員の多い会社・学校などへ教師が出張して教えるもの、など。

II	先生 ③④ ああ、そんなに力を入れなくてもいいですよ。
	春子 ③⑤ はい。
	③⑥ これでいいですか。
	先生 ③⑦ いいですね。
	春子 ③⑧ この葉は切ってもかまいませんか。
	先生 ③⑨ いいえ、切ってはいけません。
	④⑩ いいですか。
	④⑪ ほら。
	④⑫ この葉を残しておいた方がいいでしょう。

■語彙・表現

残す：手をつけず、そのままにする。ここでは、切らずに葉をつけておく。

映像 → 黒板 隠す 水盤 剣出 説明する

■文法

③④ああ、そんなに力を入れなくてもいいですよ。

許可の表現。「そんなに」は、春子が力を入れている様子を直接指示し、「それほど強く切らなくてもいい」という意図。

③⑧この葉は切ってもかまいませんか。 ③⑨いいえ、切ってはいけません。

許可を求めた③⑧の「～てもかまいませんか」の問いに対し、「～てはいけません」と断定的に禁止している。

④⑩いいですか。

形は質問文であるが、意図は消極的な行為要求表現。これからする話や動作に注意を払わせるよう発せられ、④⑪「ほら。」によって行為の結果が提示される。

④⑫この葉を残しておいた方がいいでしょう。

④⑫の文末は推定の「～でしょう」の形であるが、相手の同意ないし確認を求める表現。「～ておく」は出来上がりの状態を想定してのそれに対する準備。「～した方がいい」は単なる比較ではなく婉曲な指示・勧告。「～する方がいい」と言う一般的な使える形であるが、「～した方が」となると主観的・個別的に内容を示す。

■留意点

前の場面が枝の止め方、はさみの使い方など技術的な面での注意であったのに対し、ここでは、美的な面での生け方の指導が中心となっている。教師の言葉づかいかも、生徒の感覚を尊重してか、やや前半より控え目な指示表現が多い。

II	春子 ④③	はい。
	先生 ④④	それはもう少し下に向けるようにしてください。
	先生 ④⑤	それを生けてから、ここにこの花を生けた方がいいですね。
III	春子 ④⑥	お花を生けるのは、難しいわ。
	夏子 ④⑦	そうですね。
	春子 ④⑧	もっとおけいこしなくては……。
	夏子 ④⑨	秋子さん、今日はお茶のおけいこでしょう。
	秋子 ⑤⑩	ええ。

■語彙・表現

下に向ける：下の方へ枝先を下げる。「向ける」はある方向をさすようにする意。

■文法

④④下に向けるようにして下さい。

④④同様、婉曲な要求表現である。

④⑤それを生けてから、ここにこの花を生けた方がいいですね。

「～てから」という言い方で、「～て」の動作のあとに、次の動作がくることを表す。③①参照。「～した方がいい」は、④②の説明参照のこと。

④⑧もっとおけいこしなくては……。

最後まで言い切らず、余韻を含んだ表現ともなっている。→「～しなくてはいけないわ」「しなくてはならないわ」「しなくてはだめね」。縮約形は、「おけいこしなくちゃ。」

■留意点

春子の生け花のけいこの話題から、秋子の茶道のけいこへと話題が移る場面である。

回想シーンにはさまれて、背景には現実の菖蒲田の風景がみられる。次ページの⑤①⑤②の発話は、どんな先生が登場するのかという伏線となって次の回想の導入の役割を果たす。

■生活・文化

生け花(華道ともいう)：観賞的立場と宗教的立場の二方面から発生し、平安時代すでに室内装飾として花が生けられていたという。池の坊、草月流など各流派があり、家元制をとっている。

茶道(さどう・ちゃどう)：茶の湯ともいう。茶を飲む習慣はすでに奈良時代に中国より伝わっていたといわれる。精神の修養として礼法を究めようとする茶道は室町時代に入って、千利休が大成した。利休は禅の精神を取り入れ、簡素静寂を主体とした草庵の茶を広めた。現在、表千家裏千家をはじめとし、多くの流派に分かれているが、利休の影響を受けぬものはないといわれる。

III	夏子 ⑤①	どんな先生?	
	秋子 ⑤②	とても厳しい先生よ。	
IV	先生 ⑤③	あっ、だめです。	(茶室)
		⑤④ 右手をもう少し高くあげなければいけません。	
	秋子 ⑤⑤	これでいいですか。	
	先生 ⑤⑥	けっこうです。	

■語彙・表現

厳しい：失敗やいいかげんな態度を許さない様子で、次の回想場面をみれば、先生の教え方に対して形容されていることがわかる。

だめ：客観的条件や状況に照らし認められない。不認可の判断。主観的理由から拒否する場合は「いや」。→「よい/いい」

けっこう：ここでは「いい」というプラスの評価。文脈によって意味内容が異なる。第6巻 p.19参照。

映像 ⇒ 茶屋 点前(てまえ) 袱紗(ふくさ) 風炉 釜 柄杓

■文法

⑤④右手をもう少し高くあげなければいけません。

先生が柄杓の取り上げ方を注意している。「～しなければいけません」は必要・当然の意図。「高く」に卓立がおかれ、強く注意を促している。

⑤⑤これでいいですか。 ⑤⑥けっこうです。

⑤⑤の「で」は⑤⑥と同様限度・範囲を示し、「いいですか」で許可を求めている。この場合は右手の高さを示しながら、このぐらいあげればよいかどうかを確認している。⑤⑥は、⑤⑦と同様、相手の行為などを是認する表現。

■留意点

春子のお花の稽古の場面に比べ、緊張した雰囲気はただよっている。先生の言葉づかいも断定的である。お茶の稽古場は、一人一人に点前を実際にやらせて教える形をとるため個人教授の方式が多い。ただ最近では、教室形式のところも増え、一定時間にまとまった数の生徒を集める方式もあるが、点前は各人が順番を待って交替して習う。

■生活・文化

茶の湯の点前：茶を点てて客に出す手順は各流派によって細かく決められている。使用する道具や個々の所作にも細かな違いがみられるが、「夏は涼しく冬暖かく」客をもてなすという基本はいずれの流派にも相通ずるものである。

IV	秋子 ⑤7	あつ、すみません。	
	先生 ⑤8	もっと注意して、置かなくてははいけません。	
	秋子 ⑤9	はい。	
	先生 ⑥0	秋子さん、違いますよ。	
		⑥1	その蓋を先にとっておきます。
		⑥2	やり直してください。
	秋子 ⑥3	はい。	

■語彙・表現

注意：失敗したり、悪いことが起こらないよう、心を向けること。

違う：1.同じではない。2.正しくない。まちがっている。ここは2の意。

蓋：箱やびんなどの容器の上にかぶせるもの。→身

やり直す：まちがったり、正しくないのもう一度する。

映像 ⇒ 掛け軸 棗 茶杓 茶碗 茶釜 水指 茶巾

■文法

⑤8 もっと注意して、置かなくてははいけません。

「置く」はここでは「気をつけて柄杓を釜の口にのせる」という意味で使われている。②4、③1、④2、⑥1のような、補助動詞としての意味ではない。「～なくてははいけません」は②4と同じ必要・義務の表現。特に「はいけません」に卓立がおかれ、語調をより厳しくしているが、通常は「なくてははいけません」をひとまとまりとして発音する方が無難であろう。

⑥0 秋子さん、違いますよ。

秋子が点前の順序を間違えたことに対する注意。「よ」は相手に強く訴えている。

⑥1 その蓋を先にとっておきます。

柄杓を取る前に、水指の蓋を取った状態にする。⑥0の直後に発話されることによって一種の指示ないし示唆の意図を含む。

■留意点

⑤7～⑤9は、秋子が柄杓を置きそくなって、釜の中に落としてしまったことをめぐるやりとり。⑥0～⑥3は、道具を扱う手順が前後したことに対する注意と要求である。ふたつの部分のあいだには間もあいているのでわけて導入した方がいい。

■生活・文化

茶の湯の道具：画面でみられるものは、軸、花入などの装飾用具と、秋子が点前のために用いる点茶用具の一部である。

V	秋子 ⑥4	なかなか上手にならないわ。	(神宮内苑)	
I	夏子 ⑥5	難しいんでしょうね。		
		⑥6	でも、わたしもお茶を習ってみたいわ。	
	秋子 ⑥7	じゃあ、いっしょに習いましょうよ。		
	夏子 ⑥8	今日、おけいこを見に行ってもいいかしら。		
	秋子 ⑥9	ええ、だいじょうぶよ。		
		⑦0	先生に紹介するわ。	

■語彙・表現

なかなか：ここでは、簡単には(～ない)。後に打消表現を伴う。肯定文の場合は、かなり、相当の意。→「この映画はなかなかおもしろい。」

じゃあ：丁寧には「では」。結論を導くきっかけをなす表現。

紹介するわ：「AがBをCに紹介する。」夏子にお茶をやりたい気持ちがあると考へての、秋子の発言。

映像 → 東屋 屋根 誘う 頼む

■文法

⑥5難しいんでしょうね。

「～んでしょう」は、茶道の難しさについてよくはわからないが、秋子の回想を根拠に難しいんだろうと推測している。

⑥6でも、わたしもお茶を習ってみたいわ。

「でも」は、「難しくても、しかし」の意図。「～てみたい」はためしにやる、実際にやる、の意。第13巻、17巻参照。

⑥8今日、おけいこを見に行ってもいいかしら。

④9が伏線となっている発話。許可を求め、④9によって認められる。「かしら」は、ためらいを含んだ問いかけで、「もしおじゃまでなければ」という控えめなニュアンス。

■留意点

秋子の回想から、現実の場面にもどり、お茶のけいこをめぐる話題に関連して、この映画のタイトルに直接結びつく発話⑥8が現れる。前半に出てきた発話と関連するせりふもあるので、ここまでのストーリーの復習としても活用できよう。春子の話題としては、⑥4の感想が④6に対応する。

■生活・文化

紹介：文化教室などのようにグループ形式で生徒を募集するものは別として、稽古事の先生に個人的に師事する場合、大半は知人などのつてを通じて、ひきあわせてもらった上で習い始めることが多い。

V	春子	① あら、もうこんな時間。
	2	② お花のおけいこに行かなければならないわ。
	秋子	③ えっ？
		④ あら、ほんと。
		⑤ わたし、遅刻だわ。
	春子	⑥ じゃ、急いで行かなければ。
	夏子	⑦ さあ、早く行きましょうよ。
	春子・秋子	⑧ ええ。

■語彙・表現

もう：現在、その時間、その状態になっている。→まだ（⑦、⑫、⑳）

遅刻：決められた時間より遅くなること。

急いで：目的の時間に間に合うように。→ゆっくり（と）

映像 ⇒ 腕時計 菖蒲田（出口へ）もどる

■文法

① あら、もうこんな時間。

「こんな」には時間が思いのほか早く過ぎてしまったことに対する驚きが含まれる。

② お花のおけいこに行かなければならないわ。

必要・義務の表現。ここで、春子もきょうがけいこの日であることがわかる。

⑤ わたし、遅刻だわ。

「わたしは」の「は」を言っていない。「お茶のおけいこの開始時間に間に合わない」の意。

⑥ じゃ、急いで行かなければ。

「なければ」の後の「ならない」ないし「いけない」が省略されている。さらに短く、「行かなけりゃ」「行かなきゃ」という縮約形もよく使われる。

⑦ さあ、早く行きましょうよ。

春子が⑥で「じゃ」と導いた結論をうけて、夏子が他者をうながし、いっしょに急いで行こうと訴える。残りの二人は⑧で同意。

■留意点

春子が時間の経過に気づいたのをきっかけに、庭園の散歩を切り上げ、それぞれのけいこ先へと向かう場面である。遅刻の経験（16巻）、原因・理由の言い方（19巻）など既出の巻の文型を使って質問してみるのもよい。

第 **22** 卷

あそこにもぼれば うみがみえます

— 条件の表現 1 —

目的・構成

1 目的

二つの動作・作用・状態などの必然的、習慣的、継起的関係を表現するときの「～と」、仮定や確定の条件を表現するときの「～ば」「～たら」「～なら」を中心に、複文の表現を学習する。

2 構成

梅雨の時季。二人の女子大生（春子と順子）が教室の窓越しに外を眺めながら話している場面、二人の相談がまとまり、次の日曜日に春子が地図を頼りに鎌倉の順子宅を訪れる場面、順子の父親に会って話し、三人で瑞泉寺のあじさいを見に行く場面、などで構成されている。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I-1	① ⑱	大学の教室(1)	順子、春子を自宅に誘う。	「～と」「～ば」	
I-2	⑰ ⑳	大学の教室(2) 地図	順子がバス停から家までの道順を地図を書きながら説明する。	「～と」	
II-1	/	路上	春子がバスを降りて歩き出す。		
II-2	㉓ ㉔	たばこ屋 道順	たばこ屋に寄って道を尋ねると、おばさんが教えてくれる。	「～なら」 「～と」	
III-1	㉑ ㉕	順子の家 庭先	順子は庭先で春子を迎え、室内で仕事をしている父に紹介する。	「～たら」	
III-2	㉖ ㉗	父親の部屋(1)	春子が日本画の色の作り方、描き方などについて質問する。	「～たら」 「～と」	
III-3	㉙	父親の部屋(2)	瑞泉寺の話に変わる。	「～なら」「～たら」	
IV-1	㉚ ㉜	瑞泉寺への道	順子と父親が鎌倉の自然や夏の様子を春子に説明する。	「～なら」 「～と」	
IV-2	㉝ ㉟	瑞泉寺境内	あじさいを鑑賞し、小高い丘に登って、海や富士山を眺める。	「～ば」 「～なら」	

学習項目

1 主要学習項目

「～と」「～ば」「～たら」「～なら」は、いずれも共通して順接の条件として後件に接続する機能をもつ語である。それぞれの接続の形を下に記す。

～と	動詞(基本形)+と 形容詞+と 形容動詞+と 名詞文(～だ)+と	行くと(行かないと) あついと(あつくないと) 元気だと(元気でないと) 休みだと(休みでないと)
～ば	動詞(仮定形)+ば 形容詞(仮定形)+ば	行けば(行かなければ) あつければ(あつくなければ)
～たら	動詞「～た」形+たら 形容詞「～た」形+たら 形容動詞「～た」形+たら 名詞文(～だった)+たら	行ったら(行かなかったら) あつかったら(あつくなかったら) 元気だったら(元気でなかったら) 休みだったら(休みでなかったら)
～なら	動詞(基本形)+なら 形容詞+なら 形容動詞(語幹)+なら 名詞+なら	行くなら(行かないなら) あついなら(あつくないなら) 元気なら(元気でないなら) 休みなら(休みでないなら)

① 「～と～」

(1) 前件の動作、作用があるときは、常に後件の動作、作用、状態が現れるという、必然的、習慣的、反復的な事象の表現である。

- ⑭この道を少し行くと、たばこ屋さんがあります。
- ⑮この色は青と緑をまぜると、できるわ。
- ⑯このあたりは夏になると、大勢の人が来ます。

後件は前件の発生前に発生することがなく、後件の文末表現には要求、命令、勧誘、決意などの話し手の強い意志表現は現れない。この「～と」は、「～ば」「～たら」と置きかえが可能である。ただ、「～と」で接続された前件と後件はひじょうに近接した時間内に起こることや状態であり、またその間の必然性は物理的で具体的である場合が多い。したがってこの特徴をよく示す具体的な例文を数多く与えると効果的である。

右にまわすと、音が大きくなります。

氷になると、体積がふえます。

(2) 「～といい」「～ばいい」「～たらいい」の形で慣用的に用いられ、願望、勧告、評価を表す。

③早くつゆが終わるといいな。

ここでは終助詞「な」がついて願望を表している。「いい」の代わりに「うれしい」「すばらしい」など感情を表す形容詞をつけてもよい。ほかに、

○～たら	}	困る
～と	}	いけない
○どう～たら		
	}	いい
～れば	}	

などもやさしい慣用表現である。

(3) 「～と、～た」の形で、前件が起きてから、後件がそれに引き続き起こったことを表す。

部屋にもどると、電話が鳴っていました。

前件と後件の間には必然的、習慣的關係はなく、前件の動作の結果として後件の出来事を発見した(目撃した)という表現である。前件と後件の主語は異なり、後件には話し手の意図的動作は現れない。第24巻のその他の学習項目参照。

② 「～ば～」

(1) 後件は前件が成立したときの必然的、習慣的帰結を表す。「～と」「～たら」に置きかえが可能である。

⑬お客が来れば、父も喜ぶわ。

⑭あそこに登れば、海が見えますよ。

「～ば」は「～と」と比べると、前件と後件の間の時間的な関係が薄く、また、因果関係、必然性には具体性が薄く、論理性が強い。したがって社会的通念を表現したことわざによく用いられるので、やさしいことわざを提出してみるのもよい。

毎日勉強すれば、日本語が上手になります。

落ちついて考えれば、だれでもわかることです。

朱にまじわれば、赤くなる／犬も歩けば棒にあたる

(2) 反復的でなく個別的で、話し手にとって不確実な事態を話し手が仮定的に断言して、その条件のもとでの主題の人間や事物に起こることや、話者の立場、意見等を述べる。

⑮都合がよければ、私の家に来ない？

⑯お天気がよければ、行ってみたいわ。

⑰ご迷惑でなければ、おじゃましてもいいかしら。

「～たら」で置きかえることはできるが、個別的な事象に関することであるため、「～と」で置きかえることはできない。仮定的な条件性を強くだすことから「～たら」を用いた場合より条件との因果関係がずっと高くなっている。

前件が状態性を表す場合には、後件で相手に行動を要求する命令文、「～した方がいい」「～なければならない」などの話者の強い断言がくることもある。

十円玉があれば、電話をかけてください。

あの本を読めば、わかるでしょう。

③ 「～たら～」

(1) 「～たら」の後件は、必ず前件が完了してからの動作または状態でなければならず、個別的に発生する事象を表すのに適する。「～たら」は、「～した、そのときに」程度の軽い関係を示すため自由、広範囲に用いられる。これまでに提出された例文はすべて「～たら」で置きかえることが可能である。

⑤④もう少し濃くしたかったら、この色を入れるんです。

⑤⑦そんなふうにしたかったら、この筆でこうします。

⑤⑧乾いたら、その上からぬります。

⑤②よかったら、お父さんもどう？

上記⑤④⑤⑦⑤②は「～ば」で置きかえることが可能であるが、⑤⑧は不可能である。

⑤⑧は前件に仮定性がなく、「～たら」はいずれ成立するが今はまだ成立していない事象が「成立した時点で」程度の時間的規定を与えている。結果はいずれも自然発生的なものでないので、いずれも「～と」で置きかえることはできない。

駅についたら、電話をしてください。

わたしが読んだら、貸してあげます。

風邪をひいたら、この薬を飲むといいですよ。

京都へ行ったら、お寺の写真をとりたいです。

(2) 過去の出来事が起きた、そうしたらほかの出来事が思いがけなく起こったということを表現する。

③⑩たばこ屋さんできいたら、わかりました。

前件が完了してから、後件が起きるが、両者の間に意図的、計画的な前後関係があるのではなく、偶然の成り行きである。「～と」で接続される文は客観的に表現する文に限られるのに対し、「～たら」の文はむしろ個人的体験が中心のようである。

家に帰ったら、手紙が来ていました。

買い物に行ったら、友だちに会いました。

④ 「～なら～」

名詞、形容動詞につく「～なら」は、「～ば」が動詞や形容詞についたときの形と考えてもよいだろう。

②④冬なら、よく見えるのだが。(→冬であれば、よく見えるのだが。)

文末に「だが」「のに」「～だろうか」などをつけると、現実または実際にはそうでない、そうでないことが心配される意味合いの文になる。

「～なら」は前件で話者の断定することができない事柄の実現を、多少先のこととして想定し、後件でそれが実現する以前の時点に立って話し手の行為、意志、意見を述べたり、状態を述べたりする。

⑥あじさいを見るなら、瑞泉寺がいいですね。

⑧瑞泉寺へ行くなら、私もいっしょに行きましょう。

⑨瑞泉寺へ行くなら、こっちの道が近いよ。

前件と後件の時間的前後関係が「～たら」の場合と全く逆になる。その前後関係が違くと意味が全く変わってしまうので、注意しなければならない。

あなたがこの本を読むなら、貸してあげます。

わたしがこの本を読んだら、あなたに貸してあげます。

八時の電車に乗るなら、もう家を出なければなりません。

八時の電車に乗ったら、学校に遅れてしまいます。

なお、「～なら」を用いて主題を提示する言い方もある。

⑩長谷川さんのお宅なら、すぐそこですよ。

使用にあたって

1 効果的な使い方

この巻は、「～と」「～ば」「～たら」「～なら」のさまざまな用法が盛り込まれている内容豊富な映画である。いろいろな用法が同時に提出されていること、その学習項目が談話の中で提出されるために導入用としては、適切性を欠く場合があることなど考えて、それぞれの表現別に典型的な例を用いて学習の方が効果的かと思われる。しかし、もし導入に近い目的で使用する場合には、単語レベルで丁寧に補助して、学習者の意識が構文のことだけに集中できるようにしておかなければならない。

この映画を使用するからといって、四つの複文の用法の違いを全部習得させなければならないということはない。学習者の目的により習得させる段階を変化させることもできる。

まず「～たら」と「～なら」の違いを知り、両方が使えれば、自分の言いたいことは100%言えるのであるから、それが最低線と考える。次の段階は、反復的、自然発生的結果を導く「～と」を、「～たら」から分離させる。「～と」でよく表されるのは道順、何かの説明など具体的なことが多いのでわかりやすく、問題は少ないであろう。もう一歩進むと全体を見渡して、その差異を知る、ということになる。各段階で足りない表現はすべて「～たら」で置きかえ可能な別表現形として、形の判別ができる、聞いたとき「～たら」に置きかえつつ意味が理解できる程度に学習させるわけである。

2 練習帳について

- ① 映画内容を復習するための練習。右欄の言葉をカッコの中に入れてゆけば、出来上がりだが、右欄を何かで隠しながらやってもよい。
- ② 「～と」「～ば」「～たら」「～なら」の接続形の整理。
- ③～⑧ 覚えた接続形を使って、実際に文を接続する練習。
- ⑨ 置きかえ可能な表現の置きかえ練習。
- ⑩ 不適当な表現を確認する選択肢付の練習。
- ⑪ 条件文を使って文を作る、作文要素を含んだ練習。
- ⑫ 学習項目の理解のための練習。絵を見て、状況を説明する日本語をもとにして条件文を作ってゆく。

シナリオに沿って

I 1	春子 ①	毎日毎日、よく雨が降るわね。	
	順子 ②	そうね。	
		③	早くつゆが終わるといいな。
	春子 ④	うん。	
		⑤	でも、今あじさいがとてもきれいね。
	順子 ⑥	そうね。	
		⑦	ああ、わたしの家の近くにあじさいがきれいに咲いているお寺があるわ。
	春子 ⑧	ああ、瑞泉寺でしょう。	
	順子 ⑨	ええ。	

■語彙・表現

よく：1.しばしば、たびたび。→「よく風邪をひきます」2.十分に。→「よくわかりました」3.非難、感心の気持ちを示す。→「寒いのに、よく来ましたね。」

あじさい：観賞用落葉灌木。花は白か紫でつゆの季節に咲く。

映像 ⇒ 大学 校舎 校庭 大学生 女子大生 ～階建

■文法

①②⑤⑥—「ね」 ③—「な」 ⑦—「わ」

「ね」：同意を求め—暑いですね。そうですね。；確認する—一百円ですね。はい、そうです。「な」：話し手の気持ちを表す—行きたいな、うれしいな。「わ」：文を女性的にする。また聞き手への印象を多少強める効果もある—じゃ行く→じゃ行くわ→じゃ行くわよ。

③早くつゆが終わるといいな。

「～といい」「～ばいい」「～たらいい」の形で願望を表す。文末には話し手の気持ちを表す「な」「わ」「が」「と思う」、同意を求め「ね」が付きやすい。

■留意点

導入部であるから、視聴者には基本的なことを知ってもらえばよい。つまり、季節はつゆの6月ごろであり、中心の二人の女性は同じ大学に通う友人であることなどである。またこれは親しい若い女性同志の会話であることも学生に認識させたい。

■生活・文化

つゆ：6月から7月にかけて降る長雨。高温多湿になるので、都市生活者には衣食住に問題の多い嫌な季節だが、農業従事者には田植期の恵みの雨になる。

I 1	順子 ⑩ そうだ、今度の日曜日、都合がよければ、わたしのうちに来ない？
	⑪ いっしょに瑞泉寺へ行きましょうよ。
	春子 ⑫ ええ、お天気がよければ、行ってみたいわ。
	順子 ⑬ お客が来れば、父も喜ぶわ。
	⑭ 毎日ひとりで仕事をしているから。

■語彙・表現

今度の：この次の→(この前の、この間の)

都合：ほかのこととの関係→都合がいい、都合が悪い、都合はどう？、都合がある、都合をつける。

喜ぶ：うれしく思う↔(悲しむ、がっかりする)；変化、動作性の動詞なので、「あなたに会えて、喜びます」のように、今の状態には使えない。

映像 ⇒ ヘアピン イヤリング ブラウス スカート 水玉模様

■文法

⑩ そうだ、今度の日曜日、都合がよければ、わたしのうちに来ない？

⑫ ええ、お天気がよければ、行ってみたいわ。

話し手に断定不可能な事態を仮定するときに使われる。前件が「よい」という状態を表す形容詞であるから、後件の勧誘、希望表現が可能になる。⑩の後件にもっと強い命令口調が来れば、「なら」も可能。

⑬ お客が来れば、父も喜ぶわ。

「父はお客好きで、お客が来れば喜ぶ人なのだ」と「日曜日にお客が来ることになれば父は喜ぶだろう」と二通りに解釈できる。「いつもそうであるように、喜ぶだろう」と言っているため、「と」の使用も可能。

■留意点

「都合がよければ～ませんか」はよく使われる表現であるから、⑩⑪を組にして練習させたい。

■生活・文化

瑞泉寺：鎌倉駅の北東に位置する臨済宗の禅寺で1327年に創建された。鎌倉時代につくられた庭園を残す唯一の寺である。1月の水仙に始まり梅、牡丹、アジサイ、サザンカなど1月を通して花の絶えることがなく、人々の目を楽しませてくれる。

I 1	春子 ⑮ ご迷惑でなければ、おじゃましてもいいかしら。
	順子 ⑯ じゃあ、地図を書くわ。
I 2	⑰ 鎌倉で三番のバスに乗ります。
	⑱ 大町でバスを降ります。
	⑲ この道を少し行くと、たばこ屋さんがあります。
	⑳ ここで、左の道に入ると、すぐ小さな橋があります。
	㉑ 橋を渡って、二本目の道を左に曲がると、右側の四軒目の家です。
	春子 ㉒ ありがとう。

■語彙・表現

迷惑：まわりの人が困ること→迷惑だ、迷惑なこと、迷惑をかける、迷惑する（自分が迷惑を受けること）

じゃまする：1. 何かをさまたげること。2. 人を訪問すること—「お邪魔する」の形が多い。⑳参照。

～目：数を表すことばの後について順序を示す。「二本の道」は道の数、「二本目の道」は手前から1、2…と番号をつけたときに2にあたる道。

鎌倉：第9巻トピック参照。

■文法

⑮ご迷惑でなければ、お邪魔してもいいかしら。

話し手にとって不確実な事態を仮定した表現。⑩⑫参照。

⑲この道を少し行くと、たばこ屋さんがあります。

⑳ここで、左に曲がると、すぐ小さな橋があります。

㉑橋を渡って、二本目の道を左に曲がると、右側の四軒目の家です。

自然発生的必然的結果をもたらす条件を示す。後件には話し手の恣意的表現はなく、あくまで客観的叙述あるいは習慣性のある動作がくる。

■留意点

「ご迷惑でなければ……」は最近の若い日本人同志の会話ではあまり聞かれないが、やはりひとまとまりの表現として練習したい。

I-2は、構文としては「～と」だけが問題である。音を消して、画面だけ見ながら順子になったつもりで説明させるとよい。「鎌倉」が登場。春子はおそらく東京から行くこと、東京と鎌倉の位置関係が少しわかるとよい。

II 2	春子	㉓	すみません。
		㉔	長谷川さんのお宅は、この近くでしょうか。
	おばさん	㉕	ああ、日本画の……。
	春子	㉖	ええ。
	おばさん	㉗	長谷川さんのお宅なら、すぐそこですよ。
		㉘	左の道をまっすぐ行って、二本目の道を左に入ると、右側にあります。
III 1	順子	㉙	すぐわかりました？
	春子	㉚	ええ、たばこ屋さんで聞いたら、すぐわかりました。
	順子	㉛	そう、じゃ、よかった。

■語彙・表現

お宅：1. 「他人」の家をいう敬語。→お宅はどちら？ 2. 相手や相手方の敬語。

→お宅もここの学生さん？、お宅（の会社、店）は何時まで？

よかった：1. それじゃ、よかった（安心）。2. それは、よかった（祝賀）。

■文法

㉗長谷川さんのお宅なら、すぐそこですよ。

「～なら」は話題提示のために用いられている。「あなたがおっしゃっている長谷川さんは」というほどの意味になる。

㉘左の道をまっすぐ行って、二本目の道を左に入ると、右側にあります。

㉙㉚㉛参照。自然発生的必然的結果をもたらす条件を示す。

㉚ええ、たばこ屋さんで聞いたら、すぐわかりました。

ある過去の行動と、その結果を示す文を接続している。「～と」が継続的事実の客観的描写に限るのに対し、「～たら」はこの文のように話し手の体験を話すときに適している。「～ば」は過去の個別的な事象には用いることができないので注意。

■留意点

たばこ屋のおばさんとの会話ではじめて順子の姓が長谷川で、父親の職業が画家であるという新情報が入るので注意。たばこ屋のおばさんの説明の後の無声部分で道順の表現を繰り返して練習することができる。

■生活・文化

日本画：西洋画に対して日本画という。技法は朝鮮から伝来し、平安時代（8世紀）に純日本的大和絵が確立した。現在、技法は大和絵に近いものから西洋画に近いものまでさまざま。特徴は、一概には言えないが、影を描かない、色がシンプル、空間を面としてみる、などである。

III I	順子	③②	お父さん……。
		③③	お友だちの春子さん。
	父	③④	ああ、どうも。
		③⑤	よくいらっしやいました。
		③⑥	さあさあ。
	春子	③⑦	おじゃまします。
	父	③⑧	そちらへどうぞ。
	春子	③⑨	はい。
		④①	はじめまして。
	父	④①	いつも順子がお世話になっています。
	春子・順子	④②	まあ。(笑い声)
	父	④③	お楽にどうぞ。

■語彙・表現

よくいらっしやいました：これに対して客は「おじゃまします」「失礼します」あるいは「こんにちは」と言う。→「いらっしやい」

さあさあ：行動を促す。③⑥は「さあさあ、お上がりください」

おじゃまします：人の家や部屋に入るときのあいさつ。→「失礼します。」

はじめまして：初めて会ったときのあいさつ。→「どうぞよろしく。」

世話：他人を助けて、いろいろしてあげること。→世話をする、世話になる。

まあ：1. 驚いたり感心したりしたときの感動を表す女性的表現。「あら(女)、おや(男女)」2. とにかく、一応「まあ、すわりなさい。」「まあ、いいでしょう。」

お楽に：聞き手の緊張をやわらげるための言い方。正座の必要がないことを示すときによく用いられる。

■留意点

父親の職業が視覚的にわかる。友人春子の名前も紹介されストーリーがだんだん具体性をもってくる。前ページ③①の「～たら、…ました」は、「～ので」などと誤解されないように、偶然性をはっきり出せる例文を別に取り上げたい。

ここで登場人物の名前も全員出そろう、お互いの関係がはっきりする。これまでのストーリーが整理できるはずである。

日本語での簡単なあいさつの仕方が覚えられる。③⑦～④①、④③は定型的表現として学習する。

III 1	春子 ④④	はい。
	父 ④⑤	ちょっと失礼。
III 2	春子 ④⑥	いい色ですね。
		④⑦ こんな色が自由に出せたら、すばらしいわ。
	春子 ④⑧	難かしいんでしょうね。
	順子 ④⑨	この色は青と緑をまぜるとできるわ。

■語彙・表現

失礼：1.他人の気分を悪くする言動。→失礼な人 2.人にものを尋ねる前置き。
→「失礼ですが…」3.人にあやまる、人の前を通る、席を中座する。→「昨日
は失礼しました」4.人の部屋に入るとき、別れるときのあいさつ。

出す：無い状態から有る状態へ→熱を出す、色を出す。

まぜる：ある物に異質なものを入れ、いっしょにする。

■文法

④⑦こんな色が自由に出せたら、すばらしいわ。

「～たら、すばらしい(いい)」の形で願望や評価を表す。ここでは自分の願望を表し、またそれができるといことはすばらしいとほめている。→「～とい
い」③⑨参照。

④⑨この色は青と緑をまぜるとできるわ。

ある動作の具体的、継続的結果を導く。「～と」「～ば」「～たら」も使用可能
であるが、実際にある行動をとって、その結果が導き出されるのであるから
「～と」が最適。

■留意点

なぜ父親が「失礼」と言ったかがきちんと理解されているだろうか。また「色を出す」という意味がわかるであろうか。好む色までもっていくのが大変なことを説明しよう。

春子の絵に関する質問に対して順子が答え、父親との間の橋渡しをしている。色について順子が口頭だけで説明をし、続いて父親が実際に示すというように二重構造になっているので理解しやすいはずである。

■生活・文化

日本画の制作：絵の大きさにもよるが、日本画の制作は紙を床の上に置いてするのがふつう。同じ所を何度もぬって深みのある色にしてゆく。だいたい下塗りが終わったら墨で輪郭を描きさらに上塗りをするが、このとき表面の動きを出すためにたてかけて描く場合もある。

III 2	順子	⑤0	ねえ、お父さん。
	父	⑤1	ああ、これですか。
	父	⑤2	これは、この色と、この色をまぜると……。
		⑤3	ほら。
		⑤4	もう少し濃くしたかったら、この色を入れるんです。
	⑤5	ほら。	

■語彙・表現

ねえ：文頭について相手の注意をひくように呼びかける。→ねえ、今日映画を見に行かない？

■文法

⑤2これは、この色と、この色をまぜると……。

ある動作の具体的、継起的結果を導く「～と」。④9と同じ機能だが、結果は言葉には表されていない。聞き手は視覚でその結果を見るので、必然的かつ継起的結果であることはいまでもない。

⑤4もう少し濃くしたかったら、この色を入れるんです。

ある個別の事態を話し手が設定して、「そんなときに」「そんな場合に」どうしたらいいかという話し手の意見を述べている。

■留意点

ここでは必然的結果が視覚的に見られるので理解しやすい。「混ぜると……」の後を続けさせたい。調子がいいので音声を時々消して練習したい箇所である。

■生活・文化

日本画の絵具：色の絵具は岩絵具といって天然の岩石からとった絵具。白色の絵具には胡粉（ごふん）といって貝からとったものを使用。旧来の岩絵具はたいへん高価（10gで3～4,000円）なので現在化学的に作られた人造岩絵具（10g 4～500円程度）がよく使われている。まずニカワで溶き、よく溶けたら水を加えながら適当な濃さに調整する。

日本画の筆：西洋画の筆は豚の毛が多いが、日本画では柔らかい羊の毛が多く使われている。書道の筆に比べても大へん柔らかい。絵筆は書にも使えるが、書の筆は絵には使えないといわれている。

III 2	春子 ⑤⑥	ここもすてきだわ。
	父 ⑤⑦	そんなふうにしたかったら、この筆でこうします。
	⑤⑧	乾いたら、その上からぬります。
III 3	順子 ⑤⑨	そろそろ、あじさいを見に行きましょうよ。
	春子 ⑥⑩	ええ。
	父 ⑥⑪	あじさいを見るなら、瑞泉寺がいいですね。

■語彙・表現

ふう：1. 目にうつる様子、やり方、状態。→こんなふうにする、どういうふうな方法 2. その特徴を持っている。→中世風の建物、学生風の男、和風喫茶。

こうします：実演をしながら説明する。→（どうしますか、そうしましょう、そうすると。）

そろそろ：あるとき、あるいは、あることにとってちょうどよい時機に近づいた様子を示す—そろそろ四時だ、そろそろ寝なさい。

■文法

⑤⑦そんなふうにしたかったら、この筆でこうします。

ある個別の状況を話者の頭の中で設定しているが、「その絵のようにしたい」「そう思うときには（その場合は）……」というように前件と後件が強い因果関係を持たないために「たら」が用いられている。⑤④参照。

⑤⑧乾いたら、その上からぬります。

ぬったものがいつか乾くことは事実である。乾くことを仮定するのではなく、乾くことが完了した時点を想定している。完了した時点で上からぬる。

⑥⑪あじさいを見るなら、瑞泉寺がいいですね。

あじさいを見る、という事態を想定しつつ、話し手はその事態の実現以前の時点にたって、自分の意見を述べたり状態を叙述したりする。

■留意点

他の表現で表せない⑤⑧の「～たら」が出ているので、その理由をはっきり示したい。

■生活・文化

日本画の色：前述のように岩絵具は色が出にくいので何度も繰り返しぬる。前にぬったものが乾く前に上塗りすると色にむらができ、色の透明感がそこなわれる。

III 3	順子 ⑥②	よかったら、お父さんどう？
	父 ⑥③	ああ、瑞泉寺へ行くなら、いっしょに行きましょうか。
	順子 ⑥④	わあ。
	春子 ⑥⑤	はい。
IV 1	順子 ⑥⑥	いいお天気ねえ。
	春子 ⑥⑦	うん、よかった。
	父 ⑥⑧	ああ、順子。
	⑥⑨	瑞泉寺へ行くなら、こっちの道が近いよ。
	順子 ⑦⑩	あっ、そうね。
	父 ⑦⑪	このあたりは、夏になると大勢の人が来ます。
	順子 ⑦⑫	近ごろは車も多いのよ。

■語彙・表現

近ごろ：この頃、最近。→前、以前、昔。

■文法

⑥②よかったら、お父さんどう？

「よかったら」は、都合がよかったらの意。話し手にとって不確実な事態を話し手の仮定をもとに話をすすめる。

⑥③ああ、瑞泉寺へ行くなら、いっしょに行きましょうか。

⑥⑨瑞泉寺へ行くなら、こっちの道が近いよ。

どちらも瑞泉寺へ行く、という事態を想定して、話し手は自分の意志や意見を述べている。⑥①参照。

⑦⑪このあたりは、夏になると大勢の人が来ます。

夏になる、という前件が成立したときの習慣的結果を表す。

■留意点

「よかったら、……」の形で人に物を頼んだりする表現を練習するといいたいだろう。

また、ほかの表現では表せない「～なら」が出ているので、はっきり示すこと。このあたりの場面で鎌倉の閑静な住宅地の様子を見てほしい。東京にはあまり残っていない美しい垣根がめぐらされている家並である。

■生活・文化

父親：順子の父親は職業がら家にいることが多く、娘の客を喜んで接待しているが、ふつうのサラリーマンの家庭では父親は平日はほとんど仕事とつき合いに明け暮れるので、日曜日に娘の客の接待をする心身の余裕はあまりないのが実状である。

IV 1	父	⑦③	東京から遊びに来るなら、この辺は近いですからね。
	春子	⑦④	わあ、きれいね。
	順子	⑦⑤	この花の名前、知っている？
	春子	⑦⑥	知らないわ。
	春子	⑦⑦	なんていう花かしら。
	順子	⑦⑧	ざくろよ。
		⑦⑨	この辺にはたくさんあるの。
	春子	⑧⑩	そう。
		⑧⑪	いい花ね。
	父	⑧⑫	つゆのころになると、よく見る花ですよ。

■語彙・表現

なんていう：なんという、内容を引用する「と」がくだけて「て」に変化している。→「何て言った？、五時って聞きました。」

ざくろ：ペルシャ・インド原産の落葉喬木。実は秋に熟し、食べられる。

■文法

⑦③東京から遊びに来るなら、この辺は近いですからね。

東京から遊びに来るという事態が起こることを想定して、話し手がその事態成立以前からある状態を意見として述べている。

⑧⑫つゆのころになると、よく見る花です。

つゆのころになると、という前件が成立したときの習慣的結果を後件が表す。⑦⑪参照。

■留意点

春子はどこから来たのだろうか、という疑問を提出してみたい。東京から来たのであろうとの答えが多ければ申し分ない。では、はじめの大学はどこであろう。春子はどうやって来たか、と想像にすぎないが具体的に考えてゆくのが大切かと思われる。

■生活・文化

季節の観賞：日本は四季がはっきりしているため、日本人は常に季節を意識して暮らしている。まず天候はもちろん植物の様子がまったく違うので、天候を表す言葉や植物の名に関心が強くよく覚える。また料理はもちろん和菓子も季節の草花をモチーフに変化する。そして春は春らしい服、秋は秋らしい色と、季節と服デザインや色彩との関係も強い。

IV 1	父	⑧③	もう少し行くと、瑞泉寺です。
		⑧④	あそこのおじさいはきれいですよ。
IV 2	春子	⑧⑤	やっと着いたわね。
	順子	⑧⑥	来てよかったわね。
	春子	⑧⑦	うん。
	順子	⑧⑧	わあ、きれいだ。
	春子	⑧⑨	そうね。
	父	⑧⑩	おそこに登れば、海が見えますよ。

■語彙・表現

やっと：長い間の苦勞の末に目的に達する様子。ついに、ようやく、とうとう。
→やっとわかった、病気がやっと治った。

■文法

⑧③もう少し行くと、瑞泉寺ですよ。

もう少し行ったときの必然的結果を後件が表す。

⑧⑥来てよかったわね。

あるすでに実行、実現、完了していることや状態に対して満足感を持っているときに使われる。→「(今日は) 晴れてよかったわ。」

⑧⑦あそこに登れば、海が見えますよ。

その小高い丘から海が見える。そこに登らなければ、木や建物にじゃまされて見えないが、そこに登るという条件を満たしさえすれば、必然的に海が望める。

■留意点

「あそこのおじさいは……」の「あそこ」が瑞泉寺のことであることが理解されたであろうか。どうして「あそこ」と言っているかはあまり深入りしない方がいいと思うが、一応検討してみたい。

IV 2	順子 ⑨1	富士山も見えるかしら。
	父 ⑨2	見えるといいね。
	順子 ⑨3	ええ。
	父 ⑨4	冬ならよく見えるんだが……。
	順子 ⑨5	ああ、富士山が見える。
	春子 ⑨6	ほんとう。
		⑨7

■語彙・表現

うっすら：かすかに、ほのかに、ぼんやり。→ はっきり、くっきり

■文法

⑨2 見えるといいね。

「～といい」で願望を表し、文末にその気持ちに対する聞き手の同意を求める「ね」がついている。

⑨4 冬ならよく見えるんだが……。

冬であるという条件のもとでは、習慣的、必然的結果として富士山が見える。ただし現在はその必然的結果をもたらす条件が満たされていない。非現実のことを条件においたために、文末に「だが」がある。

■留意点

「～なら～だが」が現れる唯一の箇所。どうして「だが」が出たか理解されているか確かめたい。

■生活・文化

富士山：山梨県と静岡県との境にある富士火山帯の主峰。3776mで日本一の高い山である。美しい容姿のため日本の象徴のような存在。1707年の噴火以来活動していないが、活火山である。7月1日から8月26日までが登山期。五合目から歩くと5、6時間で登れる。軽装で行く人も多いが頂上の平均気温が-6.6℃、八月でも10℃に達しない。

第23巻 いえが たくさんあるのに とてもしずかです

— 条件の表現 2 —

目的・構成

1 目的

ここでは逆接の条件である「～のに」「～ても」「～けれども」「～にもかかわらず」などの用法を比較・対照し、それぞれの使い方を理解する。

2 構成

女子大生、春子の参加しているゼミで、夏休みの宿題として「新しい東京と古い東京」というレポートが出る。東京を知らない春子は、下町に詳しい同じゼミの正子に案内を頼む。下町を歩く二人を追って場面が展開する。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ⑦	大学のゼミの教室	ゼミの教授、レポートの課題についてスライドで説明。	「～にもかかわらず」 「～のままの」	
II	⑧	東京谷中	春子のナレーション	「～のに」	
III	⑩ ⑭	下町の裏通り	春子と下町を歩く正子、子供のころ、住んでいた場所を語る。	「～のままの」	
IV	⑮	昔の下町	正子の回想	「～ても」「～でも」	
V	⑰ ⑲	長屋の路地	歩きながらの春子と正子、昔と変わらぬ下町の様子。	「～のままの」「～のに」 「～けれど」	
VI	⑳	そば屋	これから行く店について語る。	「～ても」	
VII	㉓ ㉕	せんべい屋	正子がせんべいを買う間、店のおばさんと店について語る。	「～けれど」	
VIII	㉖ ㉘	せんべい屋の前の縁台	おばさん、少しずつ変わりつつも昔のものを残す下町を語る。	「～けれど」「～ても」	
IX	㉙	早朝の下町	春子と正子、朝顔市に向かう。	「～のに」	
X	㉚	朝顔市(1)	春子と正子、朝顔市を歩く。	「～のに」	
XI	㉜	朝顔市(2)	東京の印象(ナレーション)	「～にもかかわらず」	

学習項目

1 主要学習項目

『国語学大辞典』（1980、国語学会、東京堂）の「接続助詞」の項では、条件の言い方を次のように説明している。順接で仮定、確定を表す条件の言い方は、第22巻で取り上げた。ここでは逆接で仮定を表す「～ても」、確定を表す「～のに」、そして並置（非条件となっている）の「～けれども」、さらに「～にもかかわらず」を学習項目とする。

		順 接	逆 接	
条 件	{	①仮定	風が吹けば 雨が降る	風が吹いても 雨は降る
		②確定	風が吹くと 雨が降る	風が吹くのに 雨が降る
	{	③並置	風も吹くし 雨も降る	風も吹くけれども 雨が降る
		④その他		

① 「～ても～」

「～ても」は前件に述べる事柄を仮定して、それに対し後件で相反した展開を示すことを表現する。動詞の「～ても」の形の作り方については第13巻、21巻でふれた。つまり「～て」形にさらに「も」が加わるのである。形容詞、形容動詞の場合も同じように、「～ても／～でも」となる。名詞には「でも」が加わる。「～ない」は、「～なくても」となる。

⑩ ゆっくり歩いても10分とかからないわ。

⑪ 雨が降っても行きましょうよ。

これらは、「ゆっくり歩く」「雨が降る」という未成立の事柄を前件として、後件で「10分とかからない」「行きましょう」という話者の判断、決意を逆接的に展開している。「たとえ」を文頭につけることで仮定条件が一層強調される。また、「～ても」は、それが過去のことであっても用いることができる。

⑫ 水道があっても、わたしはよく井戸を使ったわ。

⑬ 冬の朝でも、井戸で顔を洗ったわ。

「～ても」には、対比的な事柄を並べる用法もある。

試験があってもなくても、勉強しません。

名詞+「でも」には、特別な例をあげて、指し示す用法もある。

○それは子供でもできる。 ○学者でもまだよくわからない。

② 「～のに～」

「～のに」は前件で述べることを確定した条件として、後件で当然予想される内容に相反する事柄が展開することを表現する。しばしば後件には、予想に反する意外感や不満に思う気持ちが込められる。「～のに」は動詞、形容詞の基本形に、また形容動詞の連体形につき、名詞文の場合も「～なのに」となる。したがって、「～ない」「～たい」「～らしい」には、そのまま「～のに」がつき、「そうだ」「ようだ」の場合には「そうな」「よくな」に「～のに」がつく。以上のほか、過去の言い方にも「～のに」は、接続する。「～だろう」「～(よ)う」には、「～のに」がつかない。

⑧ 私は東京に来て二年になるのに、あまり東京を知りません。

⑨ 朝早いのに、人がおおぜい来ているわね。

一般の教科書では、よく「～のに」と「～ので」が組にして提出される。

{ あした試験があるので、勉強しています。
あした試験があるのに、勉強していません。

「～のに」は後件を省略することによって前件から予想・期待される事柄が出現しないことに対する失望感や不満を強く表す。

○やめた方がいいといったのに。 ○あんなに幸せなのに……。

③ 「～けれど～」

「～けれど」は、前件で述べる事柄から予期される事柄と反対の事柄が後件で展開する表現である。動詞、形容詞、形容動詞、名詞(文)のすべての変化形(言い切りの形)につく。また「～たい」「～らしい」「～そうだ」「～ようだ」などの変化形(言い切りの形)すべてにつくが、「～(よ)う」「～まい」には接続しない。

⑭ 私は東京に来て二年になるけれど、下町を見るのは初めてだ。

この場合、前件と後件は対立的な関係があるだけで、上記の⑧の例のように予想に反する不満といったニュアンスは伴わない。また、「～けれども」には、「並置」(対比的な事柄を並べ立てる)の用法がある。

⑮ あれ(あの建物)は戦前からのものですが、(あの)写真は五年ほど前にとりました。

また、前件は、後件で述べる事柄の前置的役割をする用法もある。単に前件と後件をつなぐような場合もある。

小川と申しますけれど、先生はいらっしゃいますか。

⑯ ずいぶんいろいろなおせんべいがあるけれど、昔からこんなにいろいろあったんですか。

ほかに、ためらい・言いさしの言い方にもなる。

それが、わからないんですけれど……。

「～けれど」は、「～けれども」「～けど」(口語的)ともなり、接続詞としても

ものに「しかし」がある。

④ 「～にもかかわらず」

上記の三つの表現に対し、「～にもかかわらず」は文章語的である。映画の中でもナレーション部分に用いられている。用法は「～のに」とほぼ同じで、前件で述べる事柄を基に後件で当然予想される結果と相反する事柄が展開する。前件と後件の接続上の問題は「～にもかかわらず」が文章語的であるため、名詞(文)に続く場合はたとえば、「少年であるにもかかわらず」、また形容動詞に続く場合はたとえば、「静かであるにもかかわらず」といった表現上の問題があるが、広く文単位のものにつく。「～にもかかわらず」は接続詞としての用法を持ち、また前の文を受けて「それにもかかわらず」という形でも使われる。

- ① 東京がこのような大都会になったにもかかわらず、まだ昔の様子も残っています。
- ⑬ それにもかかわらず、古い町の様子や行事が、まだまだたくさん残っています。

2 その他の学習項目

「～まま」

「～まま」は、状態や事柄が変化していない状態を保っている様子を表す。映画中に出現する⑤⑩⑫⑲の「昔のまま(の家/東京/井戸)」は対象に手を加えない状態が保たれていることを表している。ほかに、ある状態が変化せずに保たれている表現としては、

ラジオをつけたまま、眠ってしまった。

かぎをかけないまま、出かけていった。

などがある。これらは前件の状態が続いていて、その状態の中で別の動作が行われたということである。二つの動作の同時進行を表す「～ながら」の用法との違いに注意すること。

使用にあたって

効果的な使い方

主要学習項目の応用練習に用いる場合は、ある程度ストーリーのまとまった単位で見た方がよいが、この巻はストーリー性に乏しいこともあり、時間的制限も考慮して、区切りのよい場面で二つ（I～V、VI～XI）に分けて導入した方がよい。また、場面Iは、話全体のきっかけを紹介しているので、この部分だけ先に導入し、続く話について教授者がコメントするのも、先に興味をもてるかもしれない。主要学習項目の復習のためなら一場面ごとに、語句、新出文法事項などの説明、内容質問、主要学習項目の練習、という手順ですすめていく。その際、説明は少なければ少ないほどよい。授業のリーダーシップをとるのはビデオで、学習者は映像と音声から教授者の想像以上の情報を受けとっているのである。また、主要学習項目の練習は確認程度にすませ、談話のレベルで重要な項目に時間をかけるようにする。この手順ですすめ、終わったらもう一度通して見て、ストーリーの把握を確認するため、まとめた話をさせてみるのもよい。談話レベルの項目は、場面III VI VIII IX X XI XIIなどで取り上げたい。

次に導入用に利用することについて考えてみよう。ここでは、主要学習項目の性質上、映像は直接その理解の助けにはならないことを考慮する必要がある。しかし、一般に学習項目をストーリーの中で導入することは、記憶の定着には効果的だろう。場面Iで内容紹介をし、次に場面ごとにすすめていくが、手順としては、まず大ざっぱな内容質問をする。このとき教授者は新出語句を質問の中に提出していく。学習者がどうしても類推できないときには、説明を加えるが最少限にとどめる。次にもう一度、一文ずつ聞きとりをする。その際は音声テープを使った方が、手間をとらない。本巻では、一場面を除き各場面の一つずつ主要学習項目が含まれているので、聞きとりの焦点を学習項目に当てていくことができる。その文を聞きとったら、文法導入をする。これは各主要学習項目の使い分けのはっきりしている点を取り上げ、できるだけ簡単にした方がよい。練習はストーリーからあまり離れないでいどにおさえ、むしろ、ストーリーの中の文法事項をしっかり把握するのを助けるような練習の方がよい。この作業が場面ごとに終わったら、もう一度映像を見る。聞きとりを中心とするため、6分22秒のストーリーを全部一回で導入することはできない。聞きとりは高度な集中力を必要とするため、2、3分の内容を一回に聞かせるのが限度である。

シナリオに沿って

I	教授 ① 東京がこのような大都会になったにもかかわらず、まだ昔の様子も残っています。 ② たとえば、高速道路があります。 ③ 一方で、こんな道もあります。 ④ 高層ビルが建ち並んでいます。 ⑤ その一方で、昔のままの家もあります。 ⑥ 新しい東京と古い東京についてレポートを書いてください。 ⑦ これが夏休みの宿題です。
---	--

■語彙・表現

都会：都市→（いなか・地方）→（都会育ち・都会人・都会ふう）

（その）一方で：ある物事について述べた後、もうひとつの別の側面について対比的に述べる。「その」は、前文を受けている。

について：→（に関して）

映像 → スライド 教室 授業 新幹線 ゼミ

■文法

①東京がこのような大都会になったにもかかわらず、まだ昔の様子も残っていません。

東京がスライドで見えるような大きな都会になったという事実から、当然考えられる事実とは反対の事実が述べられている。

⑤その一方で、昔のままの家もあります。

東京には高層ビルが建ち並んでいる一方で、昔の状態に手を加えられたり変化したりしていない状態の家もあるということ。

■留意点

この場面は、以後に展開される話全体のきっかけが紹介されている。教授の説明の中には四つの指示代名詞が使われているので、それぞれの内容を確認したい。①「このような」→説明前にスライドで紹介された状態を示す。③「こんな」→スライドに写されている状態を示す。⑤「その」→前文を受け、論理的関係を表す「一方」と組み合わせられている。⑦「これ」→前文を受ける。

■生活・文化

夏休み：学校は4月から3月までを1年とする。夏休みに宿題が出ることが多い。

		(下町を歩く春子、正子)
II	春子 ⑧	わたしは東京に来て2年になるのに、あまり東京を知りません。 (ナレーション)⑨
		そこで、東京をよく知っている正子さんの案内で、東京の下町へ出かけました。
III	春子 ⑩	本当に、この辺は昔のままの東京が残っているのね。
	正子 ⑪	わたしが子供のころ住んでいた場所とよく似ているわ。
	春子 ⑫	あっ、そう。
		⑬
		どんな所だったの。
	正子 ⑭	そうね。

■語彙・表現

そこで：前文を理由・条件として受ける。「それで」に比べ、会話体よりも説明文などに使われることが多い。

正子さんの案内で：「(人)の案内で／紹介で／すすめで」。人の好意的な行為があって続く行為が成立する。

映像 ⇒ オートバイ のれん

■文法

⑧わたしは東京に来て2年になるのに、あまり東京を知りません。

東京に来て2年になるという事実から当然考えられるのは、東京についてよく知っているという因果関係であるが、結果が、そうでないという表現。前件の「東京に来て2年になる」は、「～て、(期間)になる」の文型である。

⑩本当に、この辺は昔のままの東京が残っているのね。

「古い東京」と同じ。昔の東京の町の様子が、今も変わらずこの辺に残っているという意。

■留意点

「～のに」は、「～て(期間)になる」の表現とともに提出されているので、この組み合わせで練習するとよい。

「よく」は難しい語ではないが、ストーリー一中六回も提出されているので、一応意味確認しておくといよい。ここでは「十分に」の意。

■生活・文化

下町：山の手の住宅街に対し、都市に発達した、主として商工業者の住む地域。

歴史的文化的に独特な性格を示している。代表的下町としては、上野、浅草、神田など。

IV	正子 ⑮ 狭い道の両側に、家がたくさん並んでいたの。 (ナレーション)⑯ 道端には井戸もあったわ。 ⑰ 水道があっても、わたしはよく井戸を使ったわ。 ⑱ 冬の朝でも、井戸で顔を洗ったの。 ⑲ それから、よく行ったお菓子屋。 ⑳ よく遊んだ近くのお寺。	昔の下町 (回想)
V	春子 ㉑ あら、井戸……。 正子 ㉒ まだ、昔のままの井戸が残っているのね。	現在の下町

■語彙・表現

道端：道の端の方

映像 ⇒ 長屋 路地 共同井戸 すだれ バケツ

■文法

⑰水道があっても、わたしはよく井戸を使ったわ。

「水道がある」という事実に対し、それに相反した行為が展開する。過去のことを述べている。

⑱冬の朝でも、井戸で顔を洗ったの。

「冬の朝」というつらい条件のもとでもという最悪例を述べ、それに反する叙述を続ける。

㉒まだ、昔のままの井戸が残っているのね。

昔と変わらない状態を保った井戸。

■留意点

この場面では、正子が子供のころ住んでいた場所を、家並、井戸、お菓子屋、お寺(の境内)と、断片的に回想している。そのため、⑲⑳のような名詞で終わる表現が使われている。学習者には、「よく行ったお菓子屋もあったわ」のように文を完成させるのもよい。

この場面を使って「～でも」「～でも」の練習をさせるなら、同じような状況で使える例がよいだろう。「～があっても、私はよく～」「(暑い日)でも、～」など。

V	春子 ㉓	ずいぶんたくさん植木があるわね。	
	正子 ㉔	そうね。	
	春子 ㉕	それに、こんなにたくさん家があるのに、とても静かね。	
	正子 ㉖	本当に昔のままだわ。	
	春子 ㉗	わたしは、東京に来て2年になるけれど、下町を見るのは初めてだわ。	
VI	春子 ㉘	ねえ、そのお店は遠いの。	そば屋で
	正子 ㉙	ここからすぐよ。	
		㉚ ゆっくり歩いても、10分とかからないわ。	
	春子 ㉛	そう。	
	店員 ㉜	おまちどうさまでした。	

■語彙・表現

植木：鉢に植えた木。庭などに植える木、また植えた木。

それに：前の話に加えてさらにもう一つ述べるときに用いる。

映像 ⇒ そば屋 もりそば；ざるそば

■文法

㉕それに、こんなにたくさんの家があるのに、とても静かね。

眼前に家がたくさんあるという現実に対して当然考えられる事実と逆の判断「とても静かだ」が述べられている。

㉗わたしは、東京に来て2年になるけれど、下町を見るのは初めてだわ。

㉘で前件の内容が全く同じ「～のに」の逆接表現が提出されている。しかし、この後件には、因果関係をともなうニュアンスがなく、単に「下町を見るのは初めてだ」という事実が述べられている。

㉚ゆっくり歩いても、10分とかからないわ。

「ゆっくり歩く」という条件を想定して、「10分とかからない」という判断を述べている。「10分とかからない」は、前文㉙「ここからすぐよ」をより具体的に言いかえている。「10分と」は「と」でとりたてている。

■留意点

場面Vで、話の展開の上ではひとつの区切りになるので、ここまでをもう一度ははじめから見なおして、画面を止めながら、学習項目を含む文を言わせたり、場面ごとに内容をまとめさせるのもよいだろう。「～のに」の練習には、「こんなに（たくさん）～のに～」

㉘の「そのお店」という表現から、㉘以前に正子が、春子の知らない店について話していたことがわかる。この指示代名詞の確認は必ずしたい。

VII	春子	③③	あの写真は、このお店ですか。	(せんべい屋)
	おばさん	③④	ええ。	
		③⑤	あれは、80年ほど前の写真です。	
	春子	③⑥	ずいぶん昔のですね。	
	おばさん	③⑦	ええ。	
		③⑧	この店はもう110年も続いているんですよ。	
	正子	③⑨	ずいぶんいろいろなおせんべいがあるけれど、昔からこんな なにいろいろあったんですか。	
	おばさん	④⑩	そうですね。	
		④⑪	昔からあるおせんべいは、これとこれとこれですね。	
		④⑫	おまちどうさまでした。	

■文法

- ③⑨ずいぶんいろいろなおせんべいがあるけれど、昔からこんなにいろいろあった
んですか。
これは逆接表現といっても、前件は後件の内容を述べる前置きのような用法。
あるいは「けれど」で前件と後件を単に接続している。

■留意点

- 二人は②⑧で言及した「そのお店」へやってきた。(お)せんべい屋である。
「～けれど(も)」の練習を、この場面でさせるなら、できるだけ状況が似た文
を言わせるのがよい。たとえば、「ずいぶん(たくさん)～けれど、～たんで
すか」。

■生活・文化

- せんべい：和菓子のうち、焼いた干菓子。小麦粉を水でこね、薄くのばして焼き、
しょうゆ、砂糖などで味をつけたもの。関東では、米の粉で厚く焼いたもの
(草加せんべい)をさす。
都電：東京都電は、都民の足として「チンチン電車」の愛称で親しまれ、最盛期
には1日600万人の乗客を運んでいたが、増加する自動車・バスに追われ荒
川線を残して消えてしまった。現在の荒川線は、早稲田～三ノ輪橋間(12.2
キロ)を約1時間かけてときには人家の軒先をかすめるように走り、下町ら
しい雰囲気を出している。

VII	春子	④③	あつ、あの写真は？
	おばさん	④④	ああ、あれは戦前からのものですけど、写真は5年ほど前にとりました。
		④⑤	まあ、そちらへどうぞ。
VII	おばさん	④⑥	戦争で下町は、ほとんど焼けてしまったけれど、この店は、焼けなかったんですよ。
		④⑦	そこの通りは、都電が走っていましたが、10年ほど前になくなりました。

■語彙・表現

戦前：戦争前。具体的には第二次世界大戦前。

まあ：何かをすすめることを表わす。おばさんは、店先で立ち話も何だから、と言って縁台にすわるようにうながした。

戦争：第二次世界大戦をさす。

都電：路面電車。おもに都市内の交通機関として道路上に敷設された電気鉄道。

映像 ⇒ 縁台

■文法

④④ああ、あれは戦前からのものですけど、写真は、5年ほど前にとりました。

ここでは、「けれど(も)」によって、写真に写っている店と、その写真自体とを対比的に述べている。写真の店は戦前に建てられたものだが、その店を写真にとったのは五年前だと述べている。

④⑥戦争で下町は、ほとんど焼けてしまったけれど、この店は、焼けなかったんですよ。

④⑦そこの通りは、都電が走っていましたが、10年ほど前になくなりました。

④⑥は前件と後件に因果関係が成立するので、「～のに」と置きかえられるが、

④⑦は置きかえられない。④⑦は、単に都電が走っていたという事実と、都電がなくなったという事実を対比的に述べているだけである。

■留意点

この場面のトピックになっているのは、店の写真であるが、映像ではほんの一瞬しか写らないので、場面VIIのトピックとなっている写真と合わせて、映像を止めて確認させる配慮をしたい。

VIII	春子	④⑧	都電が走っていたころの写真があれです。
		④⑨	そうですか。
		⑤⑩	この辺も少しずつ変わってきているんですね。
	おばさん	⑤⑪	ええ。
		⑤⑫	変わってきているんですけど、でも、まだいろいろなものが残っています。
		⑤⑬	あしたは、朝顔市ですよ。
正子	⑤⑭	ああ、そうでしたね。	
	⑤⑮	あした、朝顔市に行かない？	
春子	⑤⑯	ええ、行ってみたいわ。	

■語彙・表現

ああ：何かを思い出したときに言う。正子は朝顔市のことを思い出した。④③、④④参照。

映像 ⇒ せんべい屋 ちょうちん

■文法

⑤⑫変わって来ているんですけど、でも、まだいろいろなものが残っています。ここでは、「～けれど」に接続詞「でも」を重ねて前件を受けている。前件は、⑤⑩の春子の発言をそのまま受けて、それはたしかにそうなのですが、という前置きとなり、後件を続けている。

⑤⑭ああ、そうでしたね。

再確認の「でした」。→「今日は20日でしたね。／約束は何時でしたか。」

■留意点

④⑧の「～が～です」名詞文は、なぜここで「～は～です」を使わず、「～が～です」を使うかについて学習者に考えさせるのも復習の意味で有効だろう。

⑤⑭⑮に、人間関係による言葉の使い方の違いが表われている。おばさんに対する正子の話し方は丁寧体で、友だちの春子に対する話し方は、くだけた会話体になっている。人間関係と言葉の使い方について確認しておきたい。

■生活・文化

朝顔市：江戸時代から夏の風物詩として伝統のある行事。現在の台東区入谷付近では江戸時代から朝顔の栽培が盛んに行われ、入谷の鬼子母神で知られる(→場面 XI 参照)。真源寺に立つ朝顔市で有名になった。毎年8月6日～8日の3日間行われ、数万鉢の朝顔が売られる。

VIII	おばさん	⑤7	朝顔市のころは、よく雨が降るんですよ。
	正子	⑤8	雨が降っても、行きましょうよ。
	春子	⑤9	そうね。
		⑥0	じゃ。
	おばさん	⑥1	そうですか。
		⑥2	ありがとうございました。
	春子・正子	⑥3	どうもありがとうございました。

■ 語彙・表現

じゃ：話し言葉で多く使われる形。何かを始めるときや終わるとき、また別れるときのあいさつの前につける。→「では」

■ 文法

⑤8雨が降っても、行きましょうよ。

「雨が降る」という条件を想定して、それでも「行きましょう」という意志、あるいは勧誘を述べている。⑤0参照。

■ 留意点

⑥0⑥1の会話は、映像の中でなされているノンバーバルコミュニケーションが重要な役割を果たしていることに注意したい。「じゃ」以降に省略されている「そろそろ行きましょうか」という文を、春子と正子が顔を見合わせてうなずくことで示しており、おばさんはそれを見て言外の意味をくみ、「そうですか(お帰りになりますか)」と答えている。一般的に、日本語では別れを告げるときのはっきりした表現が少なく、言外におわせることによって相手に告げることが多い(時計を見るなど)。

■ 生活・文化

梅雨(つゆ)：6月半ばから7月半ばにかけて降る雨。朝顔市のころは、ちょうど梅雨の時期に当たるため、雨に降られる確率が高い。場面VIIIのおばさんの発言は、朝顔市の7月6日から8日ごろが、いわゆる予想確率として雨になることが多い日という意味であろう。

IX	春子 ⑥4	こんなに早いのに、もうこのお店開いているわ。	早朝の街 (豆腐屋)
	正子 ⑥5	ずいぶん早いわね。	
X	正子 ⑥6	そこを曲がった所よ。	朝顔市
	春子 ⑥7	にぎやかね。	
	正子 ⑥8	ええ。	
	春子 ⑥9	朝早いのに、人がおおぜい来ているわね。	
	正子 ⑦0	これ、とてもきれいね。	
	春子 ⑦1	そうね。	

■語彙・表現

映像 ⇒ 早朝 ネオン 豆腐屋

■文法

⑥4 こんなに早いのに、もうこのお店開いているわ。

夜も明けないくらい早いという事実に対して当然考えられる事実とは逆の事実「もう開いている」が述べられている。「こんなに早い」と「もう」の対比が、逆接表現を強調している。②5参照。

⑥5 ずいぶん早いわね。

⑥4の「早い」は時刻についてだが、「ずいぶん早い」のは、「このお店が開くこと」についてであることに注意したい。

⑥9 朝早いのに、人がおおぜい来ているわね。

「~けれど」と置きかえることもできるが、「~のに」の場合は前件に対し、予測に反した事柄が後件で述べられている。

■留意点

場面VIIで朝顔市が立つ日を提出しておけば、場面IXが何月何日なのか、言わせることもできる。

■生活・文化

豆腐屋：豆腐などの大豆の加工食品を作って売る店。豆腐は、豆乳をにがりで固まらせた食品で、良質のたんぱくに富んでおり、最近は健康食品の代表ともいわれている。豆腐屋のような新鮮な食品を扱う店は、その日の準備を朝早くから始める。

XI	<p>春子 ㉔ このあたりは東京の中心で、ビルがたくさん建ち並んでい (ナレーション) ます。</p> <p>㉕ それにもかかわらず、古い町の様子や行事が、まだまだた くさん残っています。</p>
----	--

■語彙・表現

このあたり：この辺。独立して「あたり」を使うときは、中心的想定範囲からそ
う離れていない場所をばくぜんとさし示す。

行事：ある社会の慣行として、時を定めて行う儀式や催し。

まだまだ：「まだ」を強めた言い方。

映像 ⇒ 鬼子母神 看板

■文法

㉕それにもかかわらず、古い町の様子や行事が、まだまだたくさん残っています。

ここでは、接続詞として提出されている。前文㉔を受け、そのような状況か
ら予測できる事実とは逆の事実が述べられている。「～のに」と同様の表現だ
が文章語的で、ここでも説明文に表れている。

■留意点

場面VIまでを区切りとしたなら、場面VIから再度見ながら、映像を止めて説明さ
せたり、場面ごとに話をまとめさせるのもよいだろう。全体を通した学習を
するなら、話の展開を場面IとVIIIを把握させた上、その過程を説明させるの
もよいだろう。

■生活・文化

鬼子母神：ここでは入谷にある真源寺の鬼子母神を指す。「鬼子母神」という言葉
は、インドの女神ハーリティ (Hārīti) の意訳。インドでは古来からこの神を
出産の女神として祭り、日本でもその風習をうけて出産育児の神として祭る
習慣がある。

第 24 卷

おかねを
とられました

— 受身の表現 1 —

目的・構成

1 目的

第24巻、25巻では「受身」の表現を中心に学習する。24巻では、能動文との対比で受身文の表現の基本的理解を目的としている。ここでは、能動文から受身文の転換が すみやかにできる基本的練習が要求されることになる。

2 構成

映画は大きく3部にわかれる。まず、山田氏宅に入った泥棒の動きが、目撃した子供の目を通して展開する。続いて、泥棒による被害と警官による事情聴取があり、最後はそれを基にした練習部分である。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ④	子供の寝室 戸のすきまからのぞいた部屋の中	妙な物音で目が覚めた子供。 戸のすきまからのぞくと泥棒がいる。 立ち去った泥棒にほえる犬の声。	能動文 「～すると、～した」 「～(よ)うとする」	
II	⑤ ⑮	山田家の庭先 金庫の検証 山田家室内での聞き取り	警官に聞かれる山田氏。 警官は、手さげ金庫を調べる。 警官は、お金のほかに、ぬすまれたものがあるか、尋ねる。	受身文(「～に聞かれる」) 「～に入られる」 「～がこわされている」 「～をあけられる」 「～をとられる」	
III	⑯ ⑳	聞き取り(続き)	話題、子供にうつる。 話題が犬にうつり、重大な手がかりが 発見される。	能動文と受身文 「見る/見られる」 「～にかみつかれる」 「～にくいちぎられる」	
IV	㉓ ㉔ ㉕ ㉖	れんしゅう お金をとっている泥棒。—「とられる」 金庫をこわす泥棒。—「こわされる」 泥棒をみている子供。—「みられる」 山田氏に聞く警官。—「きかれる」		「～に～をとられる」 「～がこわされる」 「～に見られる」 「～に聞かれる」	
V		路上	捕まって、連行される泥棒	(「捕まえられる」)	

学習項目

1 主要学習項目

① 受身の表現

第24巻と第25巻の二巻で、受身の用法を学ぶ。第24巻では他動詞から作る受身の用法を、第25巻では自動詞から作る、いわゆる「迷惑の受身」の用法を主に扱っている。また、第24巻では、動作主・受動者ともに具体的であるのに対し、第25巻では、不特定多数の動作主（「みんな」、「日本人」など）による受身の用法にも言及している。

日本語における受身の用法を特徴づけているものは、ある動作によって被害を受けた、あるいは迷惑を受けたという気持ちを表現しているということである。このことは恩恵を受けたことを示す「～てもらう」（第27巻参照）と相対立する。たとえば、

- (1) 弟が、ぼくの料理を食べた。
- (2) ぼくは弟に料理を食べられた。
- (3) ぼくは弟に料理を食べてもらった。

という文をみても(2)における「料理」は「好きな料理」で、「ぼく」は「弟」によって被害をうけたという意識を表しているといえよう。(3)の場合は、「料理」は「きれいな料理」あるいは「食べたくない料理」で、「ぼく」は「弟」から恩恵を受け、感謝の気持ちを表している。このように、同一の行為を受身を使って表現するのと、「～てもらう」を使って表現するのでは、その行為に対する感情はまったく違う。

また、日本語における受身の用法のもうひとつの特徴としては、「人の持ち物、人の体の部位」は主語とはならないということである。つまり、上の(1)の受身が、

- (4) ぼくの料理は弟に食べられた。

とはならないということである。つまり「料理」といった非情物は、被害を感じることができないので、主語となることはない。同様に、

- (5) だれかがわたしの足をふんだ。

を受身文にすると、

- (6) わたしはだれかに足をふまれた。

となり、

- (7) わたしの足はだれかにふまれた。

とはならない。

初級段階での受身の用法の指導は、以上の二点をまず学習者に理解させることが重要である。この映画に限らず、一般の日本語の初級用教科書では、受身文の

例文として「ぬすむ」「とる」「する」「殺す」「なぐる」などのように、被害を及ぼす動詞が多い。また「～れて、困った／ひどいめにあった」のような例文とともに受身が使われることも多いので、受身の表現の「被害者意識」は学習者に理解させやすい。

一方、「被害者意識」のない受身の用法もある。

(8) わたしは先生にほめられた。

(9) この歌は若い人に愛されている。

(10) 新しい鳥が発見され、ヤンバルクイナと名づけられた。

(8)は「恩恵の受身」ともいえるもので、ほかにも「育てられる」「親切にされる」などもそれである。(9)は動作主が不特定多数で一般の人々の場合の受身である。

(10)は動作主が問題とならず、「何が起こったか」に視点のある場合である。「行う」

「開く」「発売する」「発表する」「発行する」などの動詞の受身文がその例である。ラジオ・テレビのニュースなどの受身文の多くはこの(10)の用法である。

教科書の文型提出順が、「やり・もらい」が「受身」より先である場合には、導入の段階から、「～てもらう」と「～される」の対比を示し、日本語の受身文の具体的な概念を教えたのち「被害者意識」のない受身に話をすすめるとよい。多くの外国人学習者にとって、「被害者意識」のない受身文は、それぞれの母国語ですでに親しんでいるので、学習に大きな困難はないと思われる。

② 受身の構文

まず、受身形の作り方は、次のようである。

五段動詞は、「～ない」形を作り、「ない」の代わりに「れる」をつける。

読む → 読ま+れる → 読まれる

使う → 使わ+れる → 使われる

一段動詞は 不変化部分に「られる」をつける。

見る → 見+られる → 見られる

食べる → 食べ+られる → 食べられる

不規則動詞

くる → こられる

する → される

このようにして、作られた受身形は、それ自身一段動詞となる。

受身文の構文は、次のとおりである。(V=動詞、N=名詞)

- (1) Aが Bを V (他動詞) 先生が学生をしかる。
→Bが Aに Vられる →学生が先生にしかられる。
- (2) Aが Bに V 母がわたしに反対する。
→Bが Aに Vられる →わたしは母に反対される。

- (3) Aが BのNを V (他動詞) 兄が弟の頭をたたいた。
→Bが Aに Nを Vられる →弟が兄に頭をたたかれた。
- (4) Aが V (自動詞) 雨が降った。
→Bが Aに Vられる →わたしは雨に降られた。
- (5) 人々が Aを V (他動詞) 人々がこの歌を知っている。
→Aが 人々に Vられる →この歌は人々に知られている。
- (6) 時、場所で Aを V (他動詞)
→時、場所で Aが Vられる
来月、ロンドンでサミットを開く。
→来月、ロンドンでサミットが開かれる。

この映画では、(1)(2)(3)が中心に取り上げられている。(4)のいわゆる「迷惑の受身」は次の第25巻で取り上げられている。

一般に受身の文では、動作主を「に」で表すが、「から」「によって」で表されることもある。「～から送られる」「～から届けられる」「～から渡される」など「うけわたし」に関する動詞は「～から」をとることが多い。つまり、動詞が方向性をもっているため、動作がだれからだれに向かってなされたのかを明らかにしていると思われる。たとえば、

母に 送られたもの

母から 送られたもの

の例をみると、前者は「だれかから 母に」ものが送られ、後者は「母から わたしに」ものが送られたのである。

人に／から 笑われる／尊敬される／呼ばれる／頼まれる

これからは、「に」でも「から」でも使える。

「によって」は やや翻訳調の感じがし、文語的な言い回しである。

また「に」の代わりに「で」が用いられる場合がある。

台風で家がこわされた。

雨で橋が流されてしまった。

これらの例でわかるように行行為者は自然現象で、「～で」は理由・原因となる。また、これらの文は、自動詞を使って「こわれた」「流れてしまった」ということも多い。

2 その他の学習項目

① 「～と、～した」

発見を示す表現。前件の動作の結果によって、後件の事態を発見したことを示す。映画中の

②戸のすきまからのぞくと、泥棒がお金をとりだしていました。

では、子供が「のぞいた」ことによって「どろぼうがお金をとりだしていた」ことを発見したのである。

この文型は発見を示すから、後件は形容詞文、「～ている」「ある/いる」などの状態の文、あるいは変化を示す文がくる。ここで注意したいのは、前件と後件の主語は異なり、さらに、後件の主語には、話者（「わたし」）がこないことである。

この文型の「と」は、動作の完了によって後件にうつることを示す「たら」とおきかえることができる。（第22巻参照）

②戸のすきまからのぞいたら、泥棒がお金をとりだしていました。

このとき、「たら」を用いるほうが口語的である。なお、この文は条件文ではないので、「ば」はつかえない。

すきまからのぞけば、どろぼうがお金をとりだしていました。

② 「～(よ)うとする」

④ 大きな声を出そうとしましたが、こわくて動けませんでした。

「～(よ)うとする」は、これからある動作に入ろうとする直前の状態を表す言い方である。「～とする」に使われる動詞は、意志動詞がほとんどである。

出かけようとしたが、雨が降ってきたのでやめた。

何かをする意志はあったのだが、なんらかの障害によってできなかったことを表している。また、次のような例もある。

ごはんを食べようとしたとき、友だちが訪ねてきた。

うちを出ようとしたら、雨が降り始めた。

これらも、ある動作に入る直前の時を表している。後件は、どちらの場合も過去表現となることに注意したい。

第25巻には次のような例がある。

⑤ 帰ろうとしたとき、お客に来られるし、そのあと……。

使用にあたって

1 効果的な使い方

24、25の両巻は、ともに受身文を扱っている。各受身文の提出順については考慮されていないのでこの二巻の映画は、ともに受身文の教室における導入、練習を経たのちに、学習事項をまとめる段階で見せるのが適当である。

主要学習項目の項で述べたように第24巻では他動詞を中心に、第25巻では自動詞を中心に扱っているので、両巻は多少時を隔てて、学習者が整理がついたところで視聴させるのがよいだろう。第24巻は内容的にはたわいないかもしれないが、既習のことがらだけで事件の顛末が理解でき、学習者には多少の満足感を与えることができよう。

24、25の両巻とも練習する文の多くが、スチールで提示されている。VTRの一時停止機能を使わなくても、モニターの音を消すことによって、主要な文の練習ができるようになっているから利用されたい。

2 練習帳について

④～⑦は「受身文」と「能動文」の転換練習とその助詞の練習である。

⑧、⑨は、副次的練習項目の文連結による練習である。

⑩はおきかえによる会話練習。⑪は聞きとり。後半部は「受身文」の完成が主なテーマとなる場合が多い。

シナリオに沿って

I	子供 ① 夜中に変な音がするので、ぼくは目が覚めました。 ② 戸のすきまからのぞくと、泥棒が金庫をあけて、お金をとりだしていました。 ③ 泥棒はガラスを切って、家の中に入ったのです。 ④ 大きな声を出そうとしましたが、こわくて動けませんでした。
---	---

■語彙・表現

音がする：→「音がする、においがする。」

目が覚める：他動詞表現は「目を覚ます」。「起きる」がふとんから出て、活動を開始するのに対して、「目が覚める」は目があくまでをいう。

すきま：物と物との間に、狭くあいた空間。「すきま風」

のぞく：狭い穴・すきまなどを通して向こうの様子を見ること。→(～からのぞく)

映像 ⇒ 階段 ふとん バジャマ

■文法

②戸のすきまからのぞくと、泥棒が金庫を開けて、お金をとりだしていました。

発見を表す文型。「すきまからのぞく」ことによって、「泥棒がお金をとりだしている」ことを発見したのである。前件と後件の主語が違うこと、文末のテンスに注意。

④大きな声を出そうとしましたが、こわくて動けませんでした。

何かをする意志はあったが、なんらかの障害によってできないことを示す文型。「こわくて」は「動けませんでした」の原因・理由となる。

■留意点

受身文を学習する映画なので、映像を使って受身文を作る練習をする。

「泥棒は子供にのぞかれました」

「泥棒に金庫を開けられて」/「金庫が泥棒に開けられて」

「泥棒にお金をとりだされてきました」/「お金が泥棒にとりだされてきました」

「泥棒にガラスを切られて」/「ガラスが泥棒に切られて」

「泥棒に家の中へ入られて」

一回映画を見た後ならば、さらに次のような文を作ることが可能であろう。

「泥棒が犬にほえられました」

「泥棒が犬にかみつられました」

「泥棒は犬にシャツをくいちぎられました」

II	警官 ⑤ ええと、お名前は。
	山田 ⑥ 山田一郎です。
	警官 ⑦ ふんふん、ここから泥棒に入られたんですね。
	⑧ ほほう、かぎがこわされていますね。
	⑨ そして、金庫をあけられたのですね。
	⑩ お金をとられた……。
	⑪ いくらぐらいとられましたか。
	山田 ⑫ ええと、ちょっとわかりませんが。
	警官 ⑬ ふーん。

■語彙・表現

ふんふん：相手の説明を納得して聞いていることを示す。明瞭には発音されない。

ほほう：話や眼前の物事に関心があることを示す。

こわす：→こわれる(自動詞)。

とる：→ぬすむ。

映像 ⇒ 手帳

■文法

⑦ふんふん、ここから泥棒に入られたんですね。

受身文。能動文は「泥棒がここから(家に)入ったんですね」。

⑧ほほう、かぎがこわされていますね。

「受身+～ている」の形。ある動作とその結果を示している。「かぎがこわされている」←「かぎがこわされた」←「泥棒がかぎをこわした」の順に考えるとわかりやすい。

⑨そして、金庫をあけられたのですね。

全文は「あなた(山田さん)は、泥棒に金庫をあけられた」。能動文は「泥棒があなた(山田さん)の金庫を開けた」。

⑩お金をとられた……。

能動文は「泥棒が(あなたの)お金をとった」。

■留意点

映像を利用して受身文をつくることができる。

「警官は山田さんにいろいろ聞きました。」→「山田さんは警官にいろいろ聞かれました。」(⑳参照)

II	警官	⑭	ほかに何かとられましたか。
		⑮	ほかには何もとられなかった……。
	山田	⑯	ああー、この子が泥棒を見たんです。
	警官	⑰	ほほう、泥棒はお子さんに見られたんですね。
	山田	⑱	ええ。
	警官	⑲	犬にかみつかれたらしいんですね。
	山田	⑳	あの一、これ。
	警官	㉑	ほほう、これはシャツの切れはしでしょうねー。
	㉒	犬にくいちぎられたんですね。	

■語彙・表現

ああー：何かを思いついたときに言う。

切れはし：大きな物から切りとられた一小部分。口語的には「きれっばし」。

くいちぎる：口を使って、物の一部を本体から切りはなすこと。

■文法

⑭ほかに何かとられましたか。

能動文は「泥棒はほかに何かとりましたか」。受身文には動作主の「泥棒に」が省略されている。

⑯ああー、この子が泥棒を見たんです。

受身文は「泥棒はこの子に見られたんです」となり、⑰がそれである。⑯の「この子」が⑰では「お子さん」になっているのは、相手に対する敬意を表す待遇表現。

⑲犬にかみつかれたらしいんですね。

主語は「泥棒」である。能動文は「犬が泥棒にかみついたらしいんです」。「かみつく」の受身形の過去形に推量の助動詞「らしい」がついたもの。

㉒犬にくいちぎられたんですね。

「泥棒は犬にシャツをくいちぎられたんですね。」能動文は「犬は泥棒のシャツをくいちぎったんですね」。

III	ナレーション ㉓ 山田さんはお金をとられました。 ㉔ 金庫がこわされました。 ㉕ 泥棒は子供に見られました。 ㉖ 山田さんは警官にいろいろ聞かれました。
IV	(泥棒は警官に捕まえられる)

■語彙・表現

映像 ⇒ 捕まえる

■文法

㉓山田さんはお金をとられました。

能動文は「(泥棒は) 山田さんのお金をとりました」。

㉔金庫がこわされました。

能動文は「(泥棒は) (山田さんの) 金庫をこわしました」。

受身文は㉔のほかに、「(山田さんは) (泥棒に) 金庫をこわされました」も可能。

㉕泥棒は子供に見られました。

能動文は「子供が泥棒を見ました」。

㉖山田さんは警官にいろいろ聞かれました。

能動文は「警官は山田さんにいろいろ聞きました」。

■留意点

IIIはスタイルによって構成され、ナレーション部分には、対応する動詞の受身形がスーパーで入れられている。すなわち㉓では「とられる」、㉔では「こわされる」、㉕では「見られる」、㉖では「きかれる」が画面に写し出されるので、映画の音を消して、映像と文字によるキューで受身文と能動文をつくる練習をすることができる。

最後の場面から次の受身文が作れる。

「泥棒は警官に捕まえられました。」

■生活・文化

緊急時の電話番号：警察110番、火事・事故・急病は消防署119番。無料。

第 **25** 卷

あめに ふられて こまりました

— 受身の表現 2 —

目的・構成

1 目的

第24巻に続いて、「受身」の表現を学習する。「受身」の表現の中でも、「迷惑の受身」と呼ばれる自動詞の受身による迷惑感、被害者意識の表現の学習を目的とする。なお、非情物を主語にする「受身」もここでふれたい。

2 構成

新婚旅行から帰った良夫と明子は、明子の実家を訪ねる。明子の母が良夫に見せた明子の写真をめぐって、3人は思い出を、いろいろと話し合う。

文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I ① } ⑩	応接間	新婚旅行後、明子の実家を訪ねた良夫と明子。話題は写真へ。	「～を見られる」	
II ⑩ } ⑩ } ⑩ } ⑩	応接間 母の回想 病気の明子	母の持ってきたアルバムを見る3人。病弱だった子供時代の明子に、困らされた思い出を語る母。	能動文、「病気をする」 迷惑の受身 「～し、～し」「～たび」	
III ⑩ } ⑩ } ⑩	明子の回想 ポチの墓	死んだ犬、ポチをめぐる明子と母の回想。	迷惑の受身 「あのとき」	
IV ⑩ } ⑩ } ⑩	明子の回想 横浜の公園	雨に降られた、横浜でのデートの回想。	迷惑の受身 あのとき	
V ⑩ } ⑩ } ⑩	良夫の回想 良夫の会社	客に来られ、課長にしかられてデートに1時間半も遅れた良夫。	迷惑の受身「あのとき」 「～し、～し」	
VI ⑩ } ⑩ } ⑩	明子の回想 喫茶店の中	良夫に待たされ、ほかの客に水をこぼされ、良夫にあたる明子。	迷惑の受身 「～たものだから」	
VII ⑩ } ⑩ } ⑩	応接間	雨の降る中を父の帰宅。玄関での父と母の会話。		

学習項目

1 主要学習項目

① 迷惑の受身

第24巻に引き続き、第25巻でも受身の表現について学習するが、この巻ではおもに自動詞から作る「迷惑の受身」を取り上げる。第24巻ですでに述べたように、日本語における受身は「被害者意識」「迷惑感」をその根底に持っている。したがって、他者の動作・作用の結果が、自分に悪影響を与えるととらえられた場合、影響を受ける人間が主語にたち、受身文を作る。

- (1) 雨が降る
- (2) 雨に降られて、(わたしは) 風邪をひいた。

「雨が降る」という作用は、自然現象であるが、その結果、「わたし」が迷惑をうけた場合は「わたしは 雨に 降られた」と受身文で表現することができる。

- (3) 友だちが遊びに来た。
- (4) 友だちに遊びに来られた。
- (5) 友だちに遊びに来られて、勉強ができなかった。

(5)は、前件と後件の主語は同じで、前件は後件の理由となっている。

「迷惑の受身」としてよく取り上げられる自動詞には、上の「雨が降る」「来る」のほかに、「死ぬ」「泣く」などがある。

② その他の受身

24巻、25巻の二つの映画では取り上げられていない受身の表現についても少しふれておく。

行為者が、特定の個人ではなく、不特定多数の場合には次のようになる。

- (1) みんながこのニュースを知っている。
→このニュースは、みんなに知られている。
- (2) この国の人々は、この歌を愛している。
→この歌は、この国の人々に愛されている。
- (3) 若い人は、サッカーを好んでいる。
→サッカーは、若い人に好まれている。

「みんな」「この国の人々」「若い人」はどれも不特定多数の一般の人であるが、これらが行為者の場合は、非情物を主語とする受身の表現を用いることが多い。

次に、行為者が言及される必要がない場合がある。

- (4) 3月20日に講堂で卒業式を行う。

→ 3月20日に講堂で卒業式が行われる。

この例をみると、「卒業式を行う」行為者は明らかにする必要がなく、むしろ「いつ」「どこで」「行う」かが問題となるのである。

(5) 1988年にソウルでオリンピックを開く。

→1988年にソウルでオリンピックが開かれる。

(6) 毎週木曜日にあの雑誌を発行する。

→毎週木曜日にあの雑誌が発行される。

「あの雑誌」が主題となると、次のようになる。

→あの雑誌は毎週木曜日に発行される。

テレビ・ラジオのニュース、新聞の記事などには、この種の受身が特に多いといえる。

2 その他の学習項目

① 「～し～し」

話者が、身のさまざまな事象の中からひとつの項目のもとにまとめられると考えている事柄をひとつ、あるいはふたつ以上選んで例示する。例示された事柄は、後件の理由となることが多い。映画の中でつかわれている

㊦お父さんは、いないし、明子には泣かれるし、

は、それに続く、

ほんとうに困りました。

の理由として、ふたつの理由が考えられることを示している。ふたつの事柄を並列するいい方に「～たり～たりする」があるが、「～たり～たりする」は共存できないことがらを並列することも可能である。したがって、

この子は、学校へ行ったり、行かなかったりする。

のように、逆のことを並列させることができるが、「～し～し」ではできない。

×この子は、学校へ行くし、行かないし、

② 「～たびに」

「～するときはずいぶん」という意味でふたつの文を結ぶ。

㊦病气されるたびに、ずいぶん心配しました。

日本へ来るたびに、京都へ行きます。

形容詞、形容動詞の場合は、「～くなる」「～になる」のように変化を示す動詞を用いる。

寂しくなるたびに、母に手紙を書きます。

シナリオに沿って

I	母	①	さっ、どうぞ。
	良夫	②	はい。
	明子	③	お父さんは？
	母	④	ちょっとそこまで出かけたんですよ。
		⑤	すぐ帰ってきます。
		⑥	今日は、うちで夕御飯を食べていくでしょう。
	明子	⑦	ええ。
	母	⑧	旅行は、どうでした？
	明子	⑨	とてもお天気がよくて、楽しかったわ。

■語彙・表現

お父さんは？：「お父さんは、どこですか。」の略であろうが、単に父の在否・安否に気を配ったあいさつ。

そこまで：ある特定の「そこ」を示すわけではなく「父が今、近所に外出中である」ことを示す。

■文法

⑤すぐ帰ってきます。

出発点にもどることを示す「～てくる」。(第14巻参照)

⑥今日は、うちで夕御飯を食べていくでしょう。

「うちで夕御飯を食べてから、行くでしょう。」の意。この場合厳密には、「うちで夕御飯を食べてから、帰るでしょう。」となるが、今来た客に、「帰る」を口にするのは失礼にあたるので、「食べていく」を使った。

■留意点

④～⑤は、日本人のよく用いるあいまいな表現である。学習者がこのような表現に出会ったとき、「そこ」を深く問いかえさないように指導する必要がある。

⑧の質問も同様である。⑧の質問者は積極的に知りたいことがあるわけではなく、相手が自由に答えることによって話が発展することを期待している。

■生活・文化

結婚式のあと、大部分の夫婦は新婚旅行に行く。外国に行くのは3組に1組。ハワイ、グアム島、ヨーロッパ、アメリカなどの人気が高い。

I	母	⑩	そう。
		⑪	それは、よかったわね。
		⑫	どうぞ（良夫にお茶を出す）。
	良夫	⑬	どうも。
	母	⑭	はい（明子にお茶を出す）。
	明子	⑮	はい。
	母	⑯	そうそう、結婚式の写真ができていますよ。

■語彙・表現

はい：⑭の「はい」は、相手の注意を喚起するための語。何かを渡すときによく使われる。⑮は「はい、わかりました。」の「はい。」

そうそう：何かを思い出したときにいう。

写真ができる：「できる」は完成を表す。写真が現像、プリントされたこと。

■文法

⑯そうそう、結婚式の写真ができていますよ。

この「～ている」は、結果状態の存続を表す。写真が 現像され、プリントされて、写真として見られる状態になったことを示す。（11巻④、⑳参照）

■留意点

⑩～⑪も、前ページの続きのやりとりで、あいまいな会話である。

⑫に対する⑬、⑭に対する⑮のようなやりとりは、実生活ではよく使われ、応用可能である。特に「どうも」は、今までもたびたび現われているが、ここでも復習しておきたい。適当な場面を与え、その中で使われた「どうも」が、どんな気持ちの表現なのか、学習者に言わせてみよう。

■生活・文化

「結婚式の写真」には、新郎新婦の2人だけでとった写真、式・披露宴に集まった人の集合写真、それにスナップ写真の3種類がある。前2種は、ふつう、式場の専属写真師によって撮影されるが、式のスナップ写真は写真好きの友人を頼んで、写してもらうことが多い。この映画の中で、明子たちが見ているのは、前2種の写真である。

I	母	⑰	とてもきれいにとれていますよ。
		⑱	皆さんが、きれいなお嫁さんだといって、ほめていました。
	明子	⑲	そう。
	母	⑳	そうそう、良夫さん、明子の子供のころの写真、見ましたか。
	良夫	㉑	いいえ。
		㉒	ぜひ、見たいですね。
	母	㉓	そうですか。
		㉔	じゃあ……。

■語彙・表現

ぜひ：どうあっても、きっと。願望、意志、依頼などを強調する副詞。

じゃあ……：「では」。このあとにはたとえば「アルバムを持ってきます」などが省略されている。

■文法

⑰とてもきれいにとれていますよ。

「可能動詞＋ている」は、その文の主題の状態を示す。ここでは言外の主題「写真」の状態。「可能動詞＋ている」のよく使われる例として、「この作文はよく書けている」「この本はよく売れている」などがある。

⑱皆さんが、きれいなお嫁さんだといって、ほめていました。

「ほめていた」は同じ動作が繰り返し行われたことを示す。→「毎日、人が死んでいる。」受身文にするときは、「～ている」の文のままではいけない。「きれいなお嫁さんだと、皆さんにほめられました。」となることに注意。

■留意点

「可能動詞＋ている」は、わかりにくい。可能動詞自体が状態を表すし、「～ている」も動詞を状態で表現する言い方である。「とれている」は動作の継続でも、結果でもない。ただ状態を示すだけである。初級の学習者にとって重要な文型ではないから、深入りしない方がいい。

■生活・文化

日本の親は、子供の写真をとってアルバムを作る。子供は、写した写真をアルバムに足していく。人によっては、アルバムの大部分の写真は、持主の単独、あるいは持主を含む集合写真であり、それ以外の写真は少ない。こうした写真は、あまり人に見せないが、親しい友人や知人に見せることがある。

I	明子 ⑳	いやよ、そんな写真を良夫さんに見られるの……。
	母 ㉑	いいじゃないの。
	良夫 ㉒	うん、きれいにとれているね（結婚式の写真を見て）。
	明子 ㉓	うん。
	母 ㉔	どうぞ（良夫にアルバムを渡す）。
	良夫 ㉕	はい。

■語彙・表現

いいじゃないの：異議・抗議を無視するときという言い方。親子とか友人間のよ
うに、親しい間で使われる。男性は「いいじゃないか」。規範的には「いいで
はありませんか」。

■文法

㉓いやよ、そんな写真を良夫さんに見られるの……。

倒置文である。「そんな写真を良夫さんに見られるのはいやよ。」より、感情が
表れている。「そんな」は、ここでは㉑で母が言った「明子の子供のころの写真」
をさす。この文を能動文にすると「良夫さんがそんな写真を見るのは、
（わたしは）いやよ。」となる。第24巻で学習した他動詞の受身文であり、話し
手（明子）の「被害者意識」が受身文には表れている。

■生活・文化

子供時代の写真に、自分の幼なさ、未熟さが表れていて、見せるのを嫌がる人も
いる。

II	母 ㊸ それは、近くの公園で写した写真です。 ㊹ 明子は、小さいころは、よく病気をしたんですよ。 ㊺ 五つのおかげでした。 ㊻ 夜中に明子の泣き声で起こされて、額を触ってみると、すごい熱でした。 ㊼ お父さんは、いないし、明子には、泣かれるし、ほんとうに困りました。
----	---

■語彙・表現

病気をする：→ (病気になる、病気にかかる。)

五つのおかげ：「～おかげのとき」「小学生のとき」、「大阪にいたとき」のように、ある長さをもった状態に「とき」をつけて「その期間内に」の意味を表すときの副詞句をつくる。「とき」のあとに「に」をつけても、つけなくてもよい。

■文法

㊻夜中に明子の泣き声で起こされて、額を触ってみると、すごい熱でした。

能動文は「夜中に、明子の泣き声が、わたしを、起こして、」である。「わたしを起こした」行為者「明子の泣き声」は、受身文では「で」となり、原因を表す。「で」で表される行為者は、「風でこわされる」「台風で流される」のように自然現象が多い。

「額を触ってみると、すごい熱でした」。発見を示すいい方の「～と、～た」(24巻その他の学習項目参照)。「と」は「たら」におきかえられる。

㊼お父さんは、いないし、明子には、泣かれるし、ほんとうに困りました。

同類のことがらを並列する「～し、～し」。後件の理由となることが多い。ここでは、「わたし(母)が困った」理由として、「お父さんがいない」ことと、「明子に泣かれた」ことを並列してあげている。「明子には泣かれるし」は、「明子が泣く」の「迷惑の受身」。

■留意点

㊼は、「お父さんはいなかったし、明子には泣かれたし、ほんとうに困りました」というところだが、ここで母は回想の中に入り、明子の「五つのおかげ」に自分をおいているために、前件が現在形で表現されている。

II	母	③⑥	朝、お医者さんに行ったんですが、熱が下がらないし、夜も、何度も何度も泣かれて、わたしは眠ることもできませんでした。
		③⑦	そのあとも、明子に病気されるたびに、ずいぶん心配しました。
III	良夫	③⑧	かわいい犬ですね。
	明子	③⑨	ああ、ポチね。
	明子	④⑩	ポチに死なれた時は、ずいぶん悲しかったわ。
	母	④⑪	あの時は、明子にずいぶん泣かれました。

■語彙・表現

何度も何度も：くりかえしの度数が多いことを示す。→「何本も何本も」

心配：→安心

映像 ⇒ ポチの墓

■文法

③⑥……熱が下がらないし、夜も、何度も何度も泣かれて、わたしは眠ることもできませんでした。

「熱が下がらないし」というように多くの理由から、1つを例示するときに

「～し」を用いる。ここでは「眠ることもできませんでした」の理由。

「何度も何度も泣かれて」は、「(明子が)何度も何度も泣いて」の受身文。

③⑦そのあとも、明子に病気されるたびに、ずいぶん心配しました。

「～たびに」は「～ときはいつも」の意。「明子に病気される。」の能動文は「明子が病気になる」。

④⑩ポチに死なれたときは、ずいぶん悲しかったわ。

自動詞文「ポチが死んだ」の受身文。

④⑪あのときは、明子にずいぶん泣かれました。

「あの時」は、④⑩の「ポチに死なれたとき」。三人の共通に理解するときなので「あの。」になる

「明子にずいぶん泣かれました」は「明子が泣く」の受身文。

■留意点

③⑥、③⑦、④⑩、④⑪の各文で受身文を使った発話者の気持ちを学習者に指摘させよう。後件から、容易にみつけるはずである。

■生活・文化

犬やネコは、日本では家畜ではなく愛玩動物である。家族の一員としての待遇を受け、死んだあと、お墓をつくることは珍しくない。

IV	明子 ④②	ほら、これは、二人で……。
	良夫 ④③	ああ、横浜へ行ったときの写真だね。
	明子 ④④	ええ。
	④⑤	帰りに、雨に降られて、公園の休憩所で雨がやむのを待ったわね。
	明夫 ④⑥	あのときは、寒かったね。
	母 ④⑦	そんなことも、あったんですか。
V	良夫 ④⑧	ええ。
	明子 ④⑨	あっ、そうそう、あのあとも、ひどい目にあったわ。
	良夫 ⑤⑩	うん？
	明子 ⑤⑪	ほら、あなたが1時間半も遅れたときよ。
	良夫 ⑤⑫	ああ、あのとき……。

■語彙・表現

うん？：相手の言ったことに対し、すぐには理解できなかったときに、問い返している言い方。上昇調のイントネーション。

ひどい目にあう：この場合の「目」は経験・体験の意。ふつう、悪いことだけに使われる。→ 怖い目にあう、恐い目にあう。

■文法

④⑤帰りに、雨に降られて、公園の休憩所で雨がやむのを待ったわね。

「雨に降られて」は自動詞文「雨が降って」の受身文。

④⑥あのときは、寒かったね。

明子と良夫の共通理解の「とき」なので「あのとき」。良夫は明子に語りかけている。

④⑦そんなこともあったんですか。

先行する明子と良夫の話をさす「そんなこと」。

④⑨あっ、そうそう、あのあとも、ひどい目にあったわ。

共通理解の事柄を示す「あのあと」。

⑤⑫ああ、あのとき……。

良夫と明子が共通している経験なので「あのとき」。

■生活・文化

二人の行った公園は、横浜の「港の見える丘公園」。山下公園とともに、横浜の代表的観光コースであり、デートコースである。文字どおり公園は、港の見える丘の上にあり、横浜港を一望できる。

V	良夫	㉓	帰ろうとしたとき、お客に来られるし、そのあと……。
	課長	㉔	佐藤君。
	良夫	㉕	はい。
	課長	㉖	ちょっと。
	良夫	㉗	はい。
		㉘	課長に呼ばれて、しかられるし……、仕事も言いつけられて……。
	課長	㉙	この前もいったのに、だめじゃないか。
		㉚	やり直し！
	良夫	㉛	はい。

■語彙・表現

～君：同格、目下の人の名を呼ぶときに、名のあとに「君」をつける。ふつう、

男には「君」、女には「さん」だが、女に「君」をつけることもある。

ちょっと：人を呼ぶときの語。「ちょっとこちらへ来てください」の略。

言いつける：命令して、何かをさせること。

やり直し：動詞「やり直す」の名詞形による命令。「～直す」は、あらためてもう一度するの意。

■文法

㉓帰ろうとしたとき、お客に来られるし、そのあと……。

「～(よ)うとする」は、何かを意志的に行う直前の時を示す。

「お客に来られる」は、能動文は「お客が来る」。「迷惑の受身」の例。

「～し」は㉔につながる。

㉘課長に呼ばれて、しかられるし……、仕事も言いつけられて……。

「課長が(わたしを)呼ぶ」「課長が(わたしを)しかる」「課長が(わたしに)仕事を言いつける」の受身文。

「～し」は、㉙に続く文。

㉙この前もいったのに、だめじゃないか。

「～のに」は「この前もいった」ことから客観的に判断されることに反する事柄(また同じような失敗をした)が後件で述べられる。(第23巻参照)

VI	明子	⑥2	わたしも、大変だったのよ。	
		⑥3	あなたを待っているとき……、ほかのお客さんにコップの水をこぼされて……、スカートをびしょびしょにされて… …。	
	良夫	⑥4	ちょうどそこへ、ぼくが行ったものだから……、とても怒られてしまいました。	
	母	⑥5	まあ、まあ。	
	母	⑥6	お父さんよ。	(チャイムの音)
		⑥7	まあ、こんなにぬれて……。	
	父	⑥8	うん、雨に降られてね。	
母	⑥9	さあ、早く脱いでください。		
	⑦0	良夫さんと明子が来ていますよ。		
父	⑦1	うん。		

■ 語彙・表現

びしょびしょにされて：すっかりぬらされて。「びしょびしょ」は水を十分に吸って、ぬれている状態。

まあ、まあ：ここでは軽い驚きを表す。「まあ」を重ねた語。

良夫さん：あらたまりの気持ちを込めて、子どもの配偶者を「さん」づけで呼んでいる。自分の子には、ふつう「さん」をつけない。

■ 文法

⑥3あなたを待っているとき、ほかのお客さんにコップの水をこぼされて、スカートをびしょびしょにされて――。

「ほかのお客さんが(わたしの)コップの水をこぼして」「ほかのお客さんが(わたしの)スカートをびしょびしょにして」の受身文。

⑥4ちょうどそこへ、ぼくが行ったものだから、とても怒られてしまいました。

受身文の主語、行為者を示すと「ぼくは明子に怒られて」である。能動文は「明子がぼくを怒って」。「そこ」は、先行する文⑥3の内容をさしている。「行ったものだから」の「から」は怒われた理由を示す。「もの」は、「～したから～するのは当然だ」の意味を示すが、特に触れなくてもいい。

⑥8うん、雨に降られてね。

自動詞文「雨が降る」の受身文。「迷惑の受身」の例。

『日本語教育映画 基礎編』 作成関係者

(指導・助言) 日本語教育映画等企画協議会委員 (所属は在任当時のもの)

池 尾 ス ミ (米加十一大学連合日本研究センター)

石 田 敏 子 (国際基督教大学)

今 田 滋 子 (国際基督教大学)

木 村 宗 男 (日本語教育学会)

工 藤 浩 (国立国語研究所)

窪 田 富 男 (東京外国語大学)

斎 藤 修 一 (慶應義塾大学国際センター)

佐久間 勝 彦 (東京外国語大学)

杉 戸 清 樹 (国立国語研究所)

(企画) 国立国語研究所日本語教育センター関係者 (在任当時関係者も含む)

野元菊雄 南 不二男 川瀬生郎 日向茂男 田中 望

清田 潤 中道真木男 林 大 武田 祈 水谷 修

(制作) 日本シネセル株式会社

この『教師用マニュアル』の企画・校閲・編集は国立国語研究所日本語教育センター日本語教育指導普及部教材開発室の日向茂男、清田潤が担当した。全巻にわたっての企画・校閲には中野泰子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)、野村美知子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)の両氏に多大な協力を得た。また印道緑、清地恵美子、戸川さやか各氏に企画時の補助をお願いした。

このユニット5の原案執筆・検討には中野泰子、丸山敬介、森由紀、森戸規子、石原恵子、杉山太郎各氏に助力を仰いだ。

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル

ユニット5

1984年11月15日 発行

企画・編集 国立国語研究所

・発行 〒115 東京都北区西が丘3-9-14 電話(30)900-3111

印刷 日本シネセル株式会社

〒107 東京都港区赤坂1-9-15 電話(03)582-2691-4